

2026年度

臨床検査技師科Ⅰ部
時間割・シラバス

東京医学技術専門学校

2026年度 学事予定表

臨床検査技師科Ⅰ部

4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
1	水		1	金	創立記念日 臨地実習開始	1	月		1	水		1	土		1	火	臨地ガイダンス
2	木		2	土		2	火		2	木		2	日		2	水	
3	金		3	日	憲法記念日	3	水		3	金		3	月	3 年授業	3	木	
4	土		4	月	みどりの日	4	木		4	土	登校日	4	火	3 年授業	4	金	前期授業終了
5	日		5	火	こどもの日	5	金		5	日		5	水	3 年授業	5	土	
6	月	入学式	6	水	振替休日	6	土		6	月		6	木	予備日	6	日	
7	火	オリエンテーション	7	木		7	日		7	火		7	金	予備日	7	月	予備日
8	水	授業開始	8	金		8	月		8	水		8	土		8	火	予備日
9	木		9	土		9	火		9	木		9	日		9	水	前期定期試験
10	金		10	日		10	水		10	金		10	月	3 年夏休み開始	10	木	前期定期試験
11	土		11	月		11	木		11	土		11	火	山の日	11	金	前期定期試験
12	日		12	火		12	金		12	日		12	水		12	土	
13	月		13	水		13	土		13	月		13	木	学校休校日	13	日	
14	火		14	木		14	日	3 年 都臨議学生対象講演	14	火		14	金	学校休校日	14	月	前期定期試験
15	水		15	金		15	月		15	水		15	土		15	火	前期定期試験
16	木		16	土		16	火		16	木		16	日		16	水	前期定期試験
17	金		17	日		17	水		17	金		17	月		17	木	前期定期試験
18	土		18	月		18	木		18	土		18	火		18	金	前期定期試験
19	日		19	火	HBワクチン①	19	金		19	日		19	水		19	土	
20	月		20	水		20	土	登校日	20	月	海の日	20	木		20	日	
21	火		21	木		21	日		21	火		21	金	3 年夏休み終了	21	月	敬老の日
22	水		22	金		22	月		22	水		22	土		22	火	国民の休日
23	木	健康診断	23	土	登校日	23	火	HBワクチン②	23	木		23	日		23	水	秋分の日
24	金		24	日		24	水		24	金	夏休み開始	24	月	3 年授業開始	24	木	予備日
25	土	健康フェスタ	25	月		25	木		25	土		25	火		25	金	予備日
26	日		26	火		26	金		26	日		26	水		26	土	
27	月		27	水		27	土		27	月		27	木		27	日	
28	火		28	木		28	日		28	火		28	金		28	月	予備日
29	水	昭和の日	29	金		29	月		29	水		29	土		29	火	予備日
30	木	4/25振替休日	30	土		30	火		30	木		30	日		30	水	予備日
			31	日					31	金	臨地実習終了	31	木	夏休み終了			

東京医学技術専門学校

2026年度 学事予定表

臨床検査技師科Ⅰ部

10月			11月			12月			1月			2月			3月		
1	木	後期授業開始	1	日		1	火		1	金	元旦	1	月		1	月	後期追再試験
2	金		2	月		2	水		2	土	学校休校日	2	火		2	火	後期追再試験
3	土		3	月	文化の日	3	木		3	日		3	水		3	水	後期追再試験
4	日		4	水		4	金		4	月	学校休校日	4	木	授業終了	4	木	後期追再試験
5	月		5	木		5	土		5	火	学校休校日	5	金	予備日 授業終了	5	金	後期追再試験
6	火		6	金		6	日		6	水	冬休み終了	6	土		6	土	
7	水		7	土		7	月		7	木		7	日		7	日	
8	木		8	日		8	火		8	金		8	月	予備日	8	月	後期追再試験
9	金		9	月		9	水		9	土		9	火	後期定期試験	9	火	後期追再試験
10	土		10	火		10	木		10	日		10	水	後期定期試験	10	水	予備日
11	日		11	水		11	金		11	月	成人の日	11	木	建国記念の日	11	木	予備日
12	月	スポーツの日	12	木		12	土		12	火		12	金	後期定期試験	12	金	予備日
13	火	前期追再試験	13	金		13	日		13	水		13	土		13	土	
14	水	前期追再試験	14	土		14	月		14	木		14	日		14	日	
15	木	前期追再試験	15	日		15	火		15	金		15	月	後期定期試験	15	月	卒業式
16	金	前期追再試験	16	月		16	水		16	土		16	火	後期定期試験	16	火	進級発表
17	土		17	火	2年 HB抗体検査 Tスポット検査	17	木		17	日		17	水	後期定期試験	17	水	予備日
18	日		18	水		18	金		18	月		18	木	後期定期試験	18	木	予備日
19	月		19	木		19	土		19	火		19	金	後期定期試験	19	金	予備日
20	火	HBワクチン③	20	金		20	日		20	水		20	土		20	土	
21	水		21	土		21	月		21	木		21	日		21	日	春分の日
22	木		22	日		22	火		22	金		22	月	総合学力試験	22	月	振替休日 (春分の日)
23	金		23	月	勤労感謝の日	23	水	冬休み開始	23	土		23	火	天皇誕生日	23	火	予備日
24	土		24	火		24	木	3年冬休み開始	24	日		24	水	予備日	24	水	春休み
25	日		25	水		25	金	学校休校日	25	月		25	木	予備日	25	木	
26	月		26	木		26	土	学校休校日	26	火		26	金	予備日	26	金	
27	火		27	金		27	日		27	水		27	土		27	土	
28	水		28	土		28	月	学校休校日	28	木		28	日		28	日	
29	木		29	日		29	火	学校休校日	29	金					29	月	
30	金		30	月		30	水	学校休校日	30	土					30	火	
31	土					31	木	学校休校日	31	日					31	水	

東京医学技術専門学校

臨床検査技師教育課程Ⅰ部

2024年4月～

分野	教育内容	教科科名	必修・選択	方法	単位	時間	1 年次		2 年次		3 年次			
基礎分野	科学的思考の基盤	生命倫理学	必修	講義	1	15	1	15						
		生殖医療学	必修	講義	1	15	1	15						
		再生医療学	必修	講義	1	15	1	15						
		人間生物学	必修	講義	1	15	1	15						
		実践英語	必修	講義	2	30	2	30						
	人間と生活・社会の理解	社会情報学	必修	講義	1	15	1	15						
		時事医療社会学	必修	講義	1	15	1	15						
		コミュニケーション学	必修	講義	1	15	1	15						
		ウェルネス	必修	講義	1	15	1	15						
		人間形成学	必修	講義	1	15	1	15						
		キャリアデザインⅠ	必修	講義	1	15	1	15						
		キャリアデザインⅡ	必修	講義	1	15			1	15				
		キャリアデザインⅢ	必修	講義	1	15					1	15		
	規則14単位		小計			14	210	12	180	1	15			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	必修	講義	2	30	2	30						
		解剖生理学実習	必修	実習	1	30	1	30						
		病態薬理学	必修	講義	1	15	1	15						
		栄養学	必修	講義	1	15	1	15						
		生化学	必修	講義	2	30	2	30						
		一般化学演習	必修	演習	2	30	2	30						
		健康食品管理総論	必修	講義	1	15			1	15				
		規則8単位		小計			10	165	9	150	1	15		0
	臨床検査の基礎とその疾病との関連	救急医療総論	必修	講義	2	30	2	30						
		血液学	必修	講義	2	30	2	30						
		免疫学	必修	講義	2	30	2	30						
	規則5単位		小計			6	90	6	90	0	0	0	0	
	保健医療福祉と臨床検査	公衆衛生学	必修	講義	1	15	1	15						
		保健福祉論	必修	講義	1	15	1	15						
		チーム医療総論	必修	講義	1	15	1	15						
		公衆衛生学特論	必修	講義	2	30					2	30		
	規則4単位		小計			5	75	3	45	0	0	2	30	
	医療工学及び医療情報	医療機器工学	必修	講義	1	15	1	15						
		医療情報システム学	必修	講義	1	15	1	15						
		医療情報システム学実習	必修	実習	1	30	1	30						
		医用工学特論	必修	講義	2	30					2	30		
	規則4単位		小計			5	90	3	60	0	0	2	30	
専門分野	病態学	病態学	必修	講義	1	30	1	30						
		臨床検査医学総論	必修	講義	1	30	1	30						
		臨床病態学	必修	講義	1	30			1	30				
		RCPC (Reversed Clinico-Pathology)	必修	演習	2	30			2	30				
		病態学演習	必修	演習	2	30					2	30		
	規則7単位		小計			7	150	2	60	3	60	2	30	
	血液学的検査	血液検査学	必修	講義	2	60			2	60				
		血液検査学実習	必修	実習	2	60			2	60				
		臨床血液学特論	必修	講義	2	60					2	60		
	規則4単位		小計			6	180	0	0	4	120	2	60	
	病理学的検査	病理検査学	必修	講義	2	60			2	60				
		病理検査学実習	必修	実習	2	60			2	60				
		細胞診検査学	必修	講義	1	30			1	30				
		細胞診検査学実習	必修	実習	1	30			1	30				
		病理組織・細胞診検査学特論	必修	講義	2	60					2	60		
	規則5単位		小計			8	240	0	0	6	180	2	60	
	尿・糞便等一般検査	一般検査学	必修	講義	1	30	1	30						
		一般検査学実習	必修	実習	1	30	1	30						
		一般検査学特論	必修	講義	1	30					1	30		
	規則3単位		小計			3	90	2	60	0	0	1	30	
	生化学的検査・免疫学的検査	臨床化学	必修	講義	2	60			2	60				
		臨床免疫学	必修	講義	2	60			2	60				
		臨床化学・免疫実習	必修	実習	1	30			1	30				
		臨床化学特論	必修	講義	2	60					2	60		
		臨床免疫学特論	必修	講義	2	60					2	60		
	規則6単位		小計			9	270	0	0	5	150	4	120	
	遺伝子関連・染色体検査	遺伝子染色体検査学	必修	講義	1	30	1	30						
		遺伝子染色体検査学実習	必修	実習	1	30	1	30						
	規則2単位		小計			2	60	2	60	0	0	0	0	
	輸血・移植検査	移植免疫検査学	必修	講義	1	30			1	30				
		移植免疫検査学実習	必修	実習	2	60			2	60				
		移植免疫検査学特論	必修	講義	1	30					1	30		
	規則4単位		小計			4	120	0	0	3	90	1	30	
	微生物学的検査	微生物学	必修	講義	1	30	1	30						
		臨床微生物学	必修	講義	2	60			2	60				
		臨床微生物学実習	必修	実習	2	60			2	60				
		臨床微生物学特論	必修	講義	2	60					2	60		
	規則6単位		小計			7	210	1	30	4	120	2	60	
	生理学的検査	臨床生理学	必修	講義	2	60	2	60						
		生理機能検査学Ⅰ	必修	講義	2	60			2	60				
生理機能検査学Ⅱ		必修	講義	2	60			2	60					
生理機能検査学実習		必修	実習	2	60			2	60					
画像検査学		必修	講義	1	30			1	30					
画像検査学実習		必修	実習	1	30			1	30					
臨床生理学特論		必修	講義	2	60					2	60			
規則10単位		小計			12	360	2	60	8	240	2	60		
臨床検査総合管理	検査機器学	必修	講義	1	30	1	30							
	検査機器実習	必修	実習	1	30	1	30							
	臨床検査マネジメント	必修	講義	1	30			1	30					
	精度管理学	必修	講義	1	30					1	30			
	検査管理学総論	必修	講義	1	30					1	30			
	臨床検査学特論	必修	講義	1	30					1	30			
規則6単位		小計			6	180	2	60	1	30	3	90		
医療安全管理	医療安全管理学	必修	講義	1	30	1	30							
	医療安全管理学実習	必修	実習	1	30			1	30					
規則2単位		小計			2	60	1	30	1	30	0	0		
臨地実習	臨地前学内実習 (OSCE)	必修	実習	1	30					1	30			
	臨地実習	必修	実習	11	330					11	330			
規則12単位		小計			12	360	0	0	0	0	12	360		
合計規則102単位以上総合計							118	2910	45	900	37	1050	36	975
	総合計						118	2910	45	885	37	1050	36	975

2026年度 臨床検査技師科Ⅰ部 前期時間割

第1学年

時限	1			2			3			4		
時間	9:00 ～ 10:30			10:40 ～ 12:10			12:50 ～ 14:20			14:30 ～ 16:00		
月	キャリアデザインⅠ 藤本			一般検査学 藤本			解剖生理学 谷岡	コミュニケーション学 山本		人間生物学 米良	遺伝子染色体検査学 米良	
火	公衆衛生学 宮嶋			実践英語 スタウト			救急医療総論 本郷	一般検査学実習 藤本	一般化学演習 飯島	救急医療総論 本郷	一般検査学実習 藤本	解剖生理学 谷岡
水		検査機器実習 内部	一般検査学実習 藤本	時事医療社会学 柏木	検査機器実習 内部教員	一般検査学実習 藤本	生命倫理学 岡崎	解剖生理学 谷岡		生命倫理学 岡崎	解剖生理学 谷岡	
木	臨床生理学 三嶋			検査機器学 上野			人間形成学 高柳	生殖医療学 近内・内藤		人間形成学 高柳	遺伝子染色体検査学 米良	
金		検査機器実習 内部教員		社会情報学 山本	検査機器実習 内部教員		一般化学演習 飯島・下垣・伊藤			ウェルネス 歯科教員	一般検査学 藤本	
土	予備日											

2026年度 臨床検査技師科Ⅰ部 後期時間割

第1学年

時限	1		2		3		4	
時間	9:00 ～ 10:30		10:40 ～ 12:10		12:50 ～ 14:20		14:30 ～ 16:00	
月	前期追再試験 後期前半定期・追再試 キャリアデザインⅠ		栄養学 財津		病態薬理学 田村	遺伝子染色体 検査学実習 米良	病態薬理学 田村	遺伝子染色体 検査学実習 米良
火	臨床生理学 東	再生医療学 小島	チーム医療 総論 堀井	生化学 石川	医療情報 システム学 石川	医療情報 システム実習 石川・須貝	生化学 石川	医療情報 システム実習 石川・須貝
水	医療安全管理学 高平	病態学 藤田	医療安全管理学 高平	病態学 藤田	生化学 石川	医療安全管理学 高平		医療安全管理学 高平
木	血液学 大谷		臨床検査医学総論 松木		医療機器工学 須貝	解剖生理学 実習 小澤		解剖生理学 実習 小澤
金	臨床生理学 東		保健福祉論 上野		微生物学 三崎		免疫学 黒田	
土	予備日							

2026年度

シラバス

1年生

【前期】

- ① キャリアデザインⅠ
- ② 一般検査学
- ③ 解剖生理学
- ④ コミュニケーション学
- ⑤ 人間生物学
- ⑥ 公衆衛生学
- ⑦ 実践英語
- ⑧ 救急医療総論
- ⑨ 時事医療社会学
- ⑩ 一般検査学実習
- ⑪ 生命倫理学
- ⑫ 検査機器実習
- ⑬ 臨床生理学
- ⑭ 検査機器学
- ⑮ 人間形成学
- ⑯ 生殖医療学
- ⑰ 遺伝子染色体検査学
- ⑱ 社会情報学
- ⑲ 一般化学演習
- ⑳ ウェルネス

【後期】

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☒ 基礎分野		☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野	
授業科目名	キャリアデザインⅠ			担当教員	三崎千恵美	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年		単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

入学時から社会人として必要な資質能力を形成していく。
教育課程内外にわたり、授業科目の選択などの履修指導、情報提供などを段階的に応じて行う。学生が自ら向上するよう教育活動全体を通じて支援する。

【 到達目標（S B O） 】

- ・カリキュラム、シラバスを理解する。
- ・Google Classroomを使用できる。
- ・学内外のイベントに参加し、自己の能力を高める。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション	三崎
2	Google Classroomを理解	三崎
3	ガイダンス①	三崎
4	日本臨床検査技師会、東京都臨床検査技師会、学生会員について	三崎
5	ガイダンス②	三崎
6	防犯講話：被害を避けるポイント、護身術	三崎
7	ジョブカード作成：自己分析・理解	三崎
8	ガイダンス③	三崎
9	租税教室：税について	三崎
10	金融経済教育セミナー	三崎
11	東京都臨床検査技師会 学生対象講演 参加	三崎
12	〃	三崎
13	東京都臨床検査技師会 学生対象講演 参加	三崎
14	〃	三崎
15	ガイダンス④	三崎

教科書・参考書	なし
成績評価法	出席75点、レポート25点とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	一般検査学		担当教員 藤本 純光	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 1 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

一般検査の尿検査と糞便検査は患者の負担が少ない検査であり、スクリーニング検査として病気の早期発見に結びつく検査である。また、髄液検査や関節液の検査は確定診断に結びつく検査であるので臨床検査の大切な基本項目である。各検査に必要な検体の取り扱い方・その検査の原理を理解し、各検査の臨床的意義の重要性を理解することを目標とする。

【到達目標（SBO）】

1. 腎臓の働きと構造について理解する。
2. 尿定性試験の各項目の目的と検査の原理について説明できる。
3. 尿沈渣検査から得られる成分について理解し説明することができる。
4. 糞便の色調・形状・検査より得られる情報について説明することができる。
5. 髄液の検査より得られる結果について理解し説明することができる。
6. 各検査項目の臨床的意義を説明することができる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	一般検査と腎臓について	藤本
2	尿試験紙検査法・一般性状	藤本
3	尿蛋白	藤本
4	尿糖・ケトン体	藤本
5	ビリルビン・ウロビリニン体・尿潜血反応	藤本
6	亜硝酸塩・白血球反応等（小テスト①）	藤本
7	腎機能検査等・その他	藤本
8	尿沈渣（標本作製法・染色・非上皮細胞）	藤本
9	尿沈渣（非上皮細胞・上皮細胞・変性細胞）	藤本
10	尿沈渣（円柱・塩類・結晶類・その他）	藤本
11	糞便・脳脊髄液（小テスト②）	藤本
12	脳脊髄液（性状・検査方法）	藤本
13	喀痰・その他の検査	藤本
14	体腔液・精液	藤本
15	関節液・結石・まとめ	藤本

教科書・参考書	最新 臨床検査講座 一般検査学（医歯薬出版）
成績評価法	出欠（10点）、小テスト（20点）、定期試験（70点）。59点以下は不可とする なお、出血は2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・検査センターでの勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☒ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野		
授業科目名	解剖生理学		担当教員	谷岡 その		授業形態	☒ 講義	☐ 実習	
開講時期	☒ 前期		☐ 後期		学 年	1 学年		単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

- 1) 人体の正常な構造を理解する。
- 2) 解剖学、生理学、組織学を総合的に学ぶ。
- 3) 各器官の機能と組織構造について理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 人体の正常な構造を説明できる。
- 2) 各器官の主な機能を説明できる。
- 3) 各器官のマクロ（肉眼）像とミクロ（顕微鏡）像を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、組織学総論：上皮組織	谷 岡
2	組織学総論：支持組織、筋組織、神経組織	谷 岡
3	組織学各論：消化器（口腔、唾液腺、食道）	谷 岡
4	解剖生理学総論：解剖生理の概要	谷 岡
5	解剖生理学各論：骨格系（骨の形状と種類）	谷 岡
6	組織学各論：消化器（胃、小腸）	谷 岡
7	組織学各論：消化器（大腸、肝臓）	谷 岡
8	解剖生理学各論：筋系（筋肉の構造と種類）	谷 岡
9	解剖生理学各論：脈管系（心臓、血管、リンパ管）	谷 岡
10	解剖生理学各論：消化器系（口腔、食道）	谷 岡
11	解剖生理学各論：消化器系（胃、肝臓）	谷 岡
12	組織学各論：消化器（胆嚢、膵臓）、泌尿器（腎臓）	谷 岡
13	組織学各論：泌尿器（尿道、膀胱、尿管）	谷 岡
14	組織学各論：呼吸器（気管、肺）	谷 岡
15	組織学各論：内分泌器（大脳、小脳）	谷 岡
16	解剖生理学各論：消化器系（膵臓、小腸、大腸）	谷 岡
17	解剖生理学各論：呼吸器系（肺、気管支）	谷 岡
18	解剖生理学各論：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱）	谷 岡
19	解剖生理学各論：生殖器系（精巣、卵巣、子宮）	谷 岡
20	組織学各論：内分泌器（甲状腺、副腎、下垂体）	谷 岡
21	組織学総論各論：まとめ	谷 岡
22	解剖生理学各論：内分泌系（下垂体、甲状腺、副腎）	谷 岡
23	解剖生理学各論：神経系（大脳、小脳）	谷 岡
24	解剖生理学各論：感覚器系（視神経、皮膚）、発生学	谷 岡
25	解剖生理学各論：まとめ	谷 岡

教科書・参考書	教科書：『読んでわかる解剖生理学』医学教育出版社 参考書：『入門人体解剖学』南江堂、『人体組織図譜』南江堂、
成績評価法	定期試験70点、小テスト5点、出席25点とする。59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：臨床検査技師として病院勤務経験

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	コミュニケーション学	担当教員	山本 貴之	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

日々の生活において絶えず何かしらのコミュニケーションが行われている。そのコミュニケーションの定義づけをしようとすると状況や立場などにより多様な広がりを見せる。その中でコミュニケーションについてその意義や役割、内容について考える。

その上で私生活、仕事にかかわらず実際の生活においてどのような考え方に基づいて行動し、どんなことを活用することがよりよいコミュニケーションにつながるかを身に付ける。

【 到達目標（S B O） 】

- ・コミュニケーションの意義とその必要性について説明できる。
- ・コミュニケーションがどのような方法で行われているかを説明できる。
- ・自分の得意なコミュニケーション、不得意なコミュニケーションを知り表現できる。
- ・他者の発信内容をより積極的に理解しようとする事ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	なぜ伝えるのか？ コミュニケーションの役割を考える	山本
2	何を伝えるのか？ コミュニケーションの内容を考える	山本
3	誰に伝えるのか？ コミュニケーションの方法を考える	山本
4	言葉を使ったコミュニケーションと言葉を使わないコミュニケーション	山本
5	受け取る力 聞く、読む、感じる	山本
6	表現してみよう 発表	山本
7	表現してみよう 発表	山本
8	さまざまな状況におけるコミュニケーション	山本

教科書・参考書	授業は毎回プリント配布。参考図書はその都度紹介する。
成績評価法	毎回の授業内テスト55点、発表・感想レポート45点、平常点も加味する
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	人間生物学	担当教員	米良 信昭	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査技師に必須な人間に関する基礎的知識が身に付くようになるために、生体細胞の構成成分である水・アミノ酸・タンパク質・脂質・糖類・核酸および無機物の特性を習得する。本講義は農学バイオ系の研究を行う担当教員がその実務経験を活かして行う。

【 到達目標（S B O） 】

- 1. 生物細胞の構成成分を記述できる。
- 2. アミノ酸およびタンパク質の特性を対比できる。
- 3. 脂質および糖類の機能を説明できる。
- 4. 核酸の機能および無機物の役割を説明できる。
- 5. 本講義内容に関する国家試験の問題を正答できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、生命とは、生体分子を構成する元素および水分	米良 信昭
2	アミノ酸とは、鏡像異性体、アミノ酸の構造、分類および特徴	米良 信昭
3	タンパク質とは、ペプチド結合およびタンパク質の高次構造	米良 信昭
4	脂質とは、脂質の分類、脂肪酸およびその分類	米良 信昭
5	単純脂質、複合脂質および誘導脂質	米良 信昭
6	糖類とは、単糖類、二糖類および多糖類	米良 信昭
7	核酸とは、DNA・RNAおよび遺伝子の基礎	米良 信昭
8	無機物とは、無機物の特徴およびその役割	米良 信昭
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	参考書： ニューステージ 新生物図表 浜島書店
成績評価法	出席50点および課題50点の合計100点で評価する。59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外になる。
実務経験等	病院での実務経験なし
備考	国立の研究所での実務経験あり

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☒ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	公衆衛生学		担当教員	宮嶋 由佳	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

公衆衛生学・予防医学の概念と方法を理解し、また現状の問題点を把握する。
さらに将来医療従事者として公衆衛生の向上、予防医学活動を実践するために必要な知識を身に付ける。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 用語の定義を正確に述べることができる。
- 2) 公衆衛生上の問題について原因を列挙し、対策について説明できる。
- 3) 公衆衛生活動における管理の実際や予防法について具体的に説明できる。
- 4) 関連する法規を列挙し、内容を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	公衆衛生の意義・定義、予防医学	宮嶋
2	社会保障制度、国民医療費	宮嶋
3	地域保健、国際保健	宮嶋
4	統計（１）：人口静態統計	宮嶋
5	統計（２）：人口動態統計	宮嶋
6	統計（３）：その他統計	宮嶋
7	食品保健、食中毒	宮嶋
8	感染症対策	宮嶋
9	環境保健（生活環境、地球環境問題、公害など）	宮嶋
10	母子保健	宮嶋
11	学校保健	宮嶋
12	精神保健	宮嶋
13	高齢者保健	宮嶋
14	健康増進対策	宮嶋
15	医療法、まとめ	宮嶋

教科書・参考書	教科書：『国民衛生の動向』メディックメディア 『公衆衛生がみえる』 厚生労働統計協会
成績評価法	定期試験90点、出席10点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	実践英語	担当教員	スタウト	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】 近年、多くの医療機関において、外国人患者が増えている。そのような状況で患者様と接しなければならない機会 でその実態に対応できるよう、コミュニケーションを学ぶ。
【 到達目標（S B O） 】 ①日常的に会話ができること。 ②医療現場での会話ができること。
【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	Introductory activities. "Wh" question word practice.	スタウト
2	Pre Units. Classroom English. Introducing yourself and others.	スタウト
3	Unit 1. Hospital Departments I	スタウト
4	Unit 1. Hospital Departments II. Medical issues and which department to go to.	スタウト
5	Quiz Unit 1. Unit 3. Parts of the Body. I	スタウト
6	Go over Unit 1 Quiz. Unit 3. Parts of the Body. II. Aches and Pains.	スタウト
7	Quiz. Unit 3. Unit 4. Illnesses and Occupations I.	スタウト
8	Go over Unit 3 quiz. Unit 4. Illnesses and Occupations II.	スタウト
9	Quiz Unit 4. Unit 5. Routines I.	スタウト
10	Go over quiz Unit 4. Unit 5. Routines II. Telling Time in English.	スタウト
11	Unit 5 Routines II. Telling Time in English II. Prepositions of Time I.	スタウト
12	Quiz Unit 5. Unit 6. Hospital Objects I.	スタウト
13	Go Over quiz Unit 5. Unit 6. Hospital Objects II. Countable and uncountable.	スタウト
14	Quiz Unit 6. Go over Quiz Unit 6. Review.	スタウト
15	Test	スタウト

教科書・参考書	Vital Signs (Revised Edition)
成績評価法	Attendance 10% Class Participation 30%, Quizzes 30%, Test 30%
備考・実務経験等	実務経験：なし。20years teaching at Medical Schools.19 years as a simulated patient. 15+ years as a Simulated Patient Trainer.

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	救急医療総論	担当教員	本郷正典 三崎 千恵美	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

救急医療の特徴と臨床検査技師に必要な救急医学について理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 救急医療の特徴について説明することができる。
- 2) 救急医学に必要な臨床検査について説明することができる。
- 3) チーム医療の必要性について説明することができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	救急医療総論 1（救急医療の特徴・医療体制・多職種連携）※テストあり	本郷正典
2	救急医療総論 2（救急医学）※テストあり	本郷正典
3	症状と診療 1	本郷正典
4	症状と診療 2	本郷正典
5	内因性疾患概論	本郷正典
6	薬物中毒	本郷正典
7	外因性疾患 1	本郷正典
8	外因性疾患 2 ※テストあり	本郷正典
9	小児・高齢者・侵襲と生体反応	本郷正典
10	小児・高齢者・侵襲と生体反応	本郷正典
11	災害医療・ファーストエイド	本郷正典
12	災害医療・ファーストエイド ※テストあり	本郷正典
13	救命講習（本所消防署にて実技講習）：救命処置、心肺蘇生法、AED	三崎千恵美
14	救命講習（本所消防署にて実技講習）：止血法、背部叩打法	三崎千恵美
15	救急医療・救命講習についてのまとめ：レポート作成	三崎千恵美

教科書・参考書	教科書：なし 参考書：「救急検査指針」日本臨床救急医学会
成績評価法	小テスト（35点）、授業態度（30点）、グループワーク（25点）、発表（10点）により総合的に評価する。出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	時事医療社会学	担当教員	柏木 久史	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

- 1) 医療の制度、疾病の罹患状況など基本を理解する。
- 2) 近年直面している医療トピックスを理解する。
- 3) 社会で生活を営む心得を理解する。
- 4) 時事問題を学び習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 医療制度、現状を理解して専門知識を学ぶ糧とする。
- 2) 医療トピックスから情報収集をする方法を知る。
- 3) 時事問題の解決を実装し問題解決を実行する能力を身に付ける。
- 4) 幅広い視野で精度周辺の民間事業を把握する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	医療の現状（寿命、生活習慣病・癌）	柏木 久史
2	医療制度の現状（基本編）	柏木 久史
3	現代の感染症の知識	柏木 久史
4	社会生活の営み	柏木 久史
5	時事問題の解決 1	柏木 久史
6	時事問題の解決 2	柏木 久史
7	総復習・テスト	柏木 久史
8	時事問題の解決 3	柏木 久史

教科書・参考書	なし
成績評価法	小テスト100%とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が5/8以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	一般検査学実習	担当教員	藤本 純光	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

- 1) 尿、便、脳脊髄液、穿刺液の検査実習を行う。そして各検査項目の測定方法、臨床的意義、病態との関連性について学ぶ。
- 2) 尿を検体とする検査を学ぶ。
- 3) 便を検体とする検査を学ぶ。
- 4) 脳脊髄液を検体とする検査を学ぶ。
- 5) 機器メーカーの見学を通して自動機器の原理を学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 各検査の目的、原理、臨床的意義を説明できる。
- 2) 各検体の検査手順を説明でき、実施できる。
- 3) 自動検査機器の検査原理を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1、2	尿の一般的性状（色調・混濁・比重）、尿定性試験紙（10項目）	藤本 純光
3、4	尿蛋白定性（基礎：尿試験紙の原理を試験管で再現）、尿蛋白定性・尿糖定性・尿潜血反応の偽陽性・偽陰性、臨床的意義を考える	藤本 純光
5、6	尿沈渣（顕微鏡の使い方、尿沈渣作製）	藤本 純光
7、8	尿沈渣（鏡検）	藤本 純光
9、10	髄液検査（一般性状、算定）・便潜血反応（免疫法）：臨床的意義を考える 穿刺液（濾出液・滲出液の違い、関節液：結晶）	藤本 純光
11、12	検査機器メーカー見学	藤本 純光
13	施設見学レポート作成	藤本 純光
14、15	実技試験（尿試験紙法）	藤本 純光

教科書・参考書	教科書：一般検査学（医歯薬出版）
成績評価法	出席（10点）、実技試験（30点）、レポート（40点）、定期試験（20点）。59点以下は不可とする。なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関等での勤務経験

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生命倫理学	担当教員	岡崎 直也	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

現代社会は、生命倫理の進歩と医療技術の発展とによって人間の生と死とをめぐる新しい多様な問題が提起されている。そうした問題を把握しつつ、生命倫理の今日的状況を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

医療を求める人々の立場に寄り添いながら、生命倫理に関する現代社会の問題を具体的に理解し、自覚できる。生命誕生から死にいたるライフ・サイクルのなかの多様な問題に対処するための基準を探ることができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンスー現代社会における生命倫理ー	岡崎
2	生殖補助医療の問題	岡崎
3	クローン技術・E S 細胞 i P S 細胞の問題	岡崎
4	脳死と臓器移植の問題	岡崎
5	生体臓器移植の問題	岡崎
6	尊厳死と終末期医療の問題	岡崎
7	社会と生命倫理ー森鷗外「高瀬舟」を読む ①	岡崎
8	社会と生命倫理ー森鷗外「高瀬舟」を読む ②	岡崎

教科書・参考書	教科書：児玉 聡『マンガで学ぶ生命倫理』（株）化学同人
成績評価法	授業内評価(単位レポート50%、ポストテスト・質疑応答などの平常点50%)
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野	
授業科目名	検査機器実習		担当教員	谷岡その・他	授業形態	☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

検査機器学で学んだ知識を基に、専門科目にて実習する機器の基本操作を修得する。

- ・ピペットやマイクロピペットなどの化学的実習に使用する器具の使用方法を理解する。
- ・顕微鏡の操作方法を理解する。
- ・検体検査の受付、分析。結果報告の自動化技術について理解する。
- ・自動分析装置の特徴を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- ・実習で使用する共通検査機器の使用方法を身に着ける。
（化学容量器、天秤、遠心分離機、攪拌機、恒温槽、分光光度計、顕微鏡など）
- ・生理機能検査、病理検査、微生物検査で使用する検査機器について理解する。
- ・検査センターの見学を通して、臨床検査における検体管理システム（受付・保管）と、自動分析機器による自動化検査体制について見学・学習する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	実習室にある機器の説明	谷岡その
2	秤量装置、試薬調整	谷岡その
3	光学顕微鏡の操作方法	谷岡その
4	マイクロピペット・メスピペットによる希釈操作	藤本純光
5	分光光度計による吸光度測定	藤本純光
6	分光光度計による吸光度測定	藤本純光
7	心電計で心電図測定（四肢）	東博美
8	呼吸機能検査装置で肺活量測定	東博美
9	超音波画像診断装置による画像検査	東博美
10	総復習	三崎千恵美
11	実技試験	谷岡・藤本・東・三崎
12	実技試験	谷岡・藤本・東・三崎
13	江東微生物研究所 つくばラボ見学	三崎・東
14	〃	三崎・東
15	〃	三崎・東

教科書・参考書	教科書：『最新 臨床検査学講座 検査機器総論』医歯薬出版株式会社
成績評価法	定期試験30点、実技試験40点、出席30点とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	臨床生理学		担当教員	三崎 千恵美	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】 人体の機能を生理学的観点から捉え、生命現象の基本的な仕組みを理解する。人体を構成する各器官系の働きとその調節機構について学び、それらが統合的に機能することにより恒常性が維持される仕組みを理解する。これらを通して、臨床生理学分野を学ぶための基礎的能力を養う。					
【 到達目標（S B O） 】 1) ヒトの基本的な生理機能について理解する。 2) 循環器系、呼吸器系、感覚器系、体液・血液、体温調節の基本的な仕組みを説明できる。 3) 各器官・各系が相互に関連しながら生体の恒常性（ホメオスタシス）を維持していることを理解する。					
【 授業内容 】					

回	授 業 内 容	担当教員
1	授業予定とオリエンテーション	三崎
2	循環器系（第4章）①血管・心臓の基礎	三崎
3	循環器系（第4章）②血管系・リンパ系	三崎
4	循環器系（第4章）③心臓の生理	三崎
5	循環器系（第4章）④血圧・脈拍	三崎
6	呼吸器系（第5章）①呼吸器系とは	三崎
7	呼吸器系（第5章）②呼吸の生理	三崎
8	呼吸器系（第5章）③呼吸機能検査とは	三崎
9	感覚器系（第11章）①感覚器の基礎	三崎
10	感覚器系（第11章）②いろいろな感覚	三崎
11	体液・血液（第12章）①体液とは	三崎
12	体液・血液（第12章）②血液の基礎	三崎
13	体温とその調節（第13章）①体温の調節	三崎
14	体温とその調節（第13章）②発汗	三崎
15	総復習	三崎

教科書・参考書	教科書：「読んでわかる解剖生理学」医学教育出版
成績評価法	定期試験85点、出席15点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院での勤務 備考：理解度確認のため、授業内で簡単な確認問題を適宜行う。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	検査機器学	担当教員	上野 芳人	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査技師の仕事は検査機器を用いて分析する。専門職として検査機器の原理、機器構造、使用方法および保守管理など含めた取り扱い方法を学習する。

【 到達目標（S B O） 】

医療現場で使用する臨床検査機器の原理を説明できる
臨床検査機器の使用方法を説明できる

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨床検査における用手法と検査機器および自動分析装置について	上野
2	ピペット等の化学容量器	上野
3	秤量装置、遠心分離装置	上野
4	分離分析装置 攪拌機 恒温槽	上野
5	滅菌装置 測光装置	上野
6	測光装置 顕微鏡	上野
7	生化学専用機器	上野
8	血液専用機器	上野
9	免疫専用機器	上野
10	血液専用機器	上野
11	一般検査専用機器	上野
12	細菌、病理専用機器	上野
13	純水製造置、電気化学装置	上野
14	POCT(ポータブル分析装置)	上野
15	機器取り扱いおよび安全性と保守について まとめ	上野

教科書・参考書	『最新 臨床検査学講座 検査機器総論』医歯薬出版社 および 配布資料
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験を取り入れて解説

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	人間形成学	担当教員	高柳 文子	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

手紙等を手書きで書くことなどを通じ、社会人としての挨拶等の一般的な常識力を身につける。また、ペン習字の技法を学び、美しい文字の書き方を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 相手方に失礼のない手紙等を書くことができる。
- 2) 就職活動等で使用する履歴書を書くことができる。
- 3) 社会人として、相手との関係での一般的な常識を身につけることができる。
- 4) ペン習字の技法を学び、美しい文字の書き方を習得できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	履歴書の書き方	高柳
2	はがき及び封筒の書き方	高柳
3	手紙の書き方	高柳
4	時候の挨拶、二十四節気、月の異称	高柳
5	電子メールの書き方、電話のかけ方	高柳
6	演習（履歴書など）	高柳
7	贈答用語の書き方、カレンダーの見方、六曜	高柳
8	まとめ	高柳

教科書・参考書	
成績評価法	小テスト30点、出席70点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が5／8以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生殖医療学	担当教員	内藤香奈、近内虹多、谷岡その	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

- ・生殖器の正常な構造、人体発生を理解する。
- ・生殖医療の業務内容について理解する。
- ・生殖医療の現場で行われる検査方法について体系的に学ぶ。
- ・生殖補助医療における臨床検査技師と胚培養士の関わりを理解する。
- ・男性不妊症について理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- ・生殖器の構造を説明できる。
- ・人体発生を説明できる。
- ・生殖補助医療の基本的な検査業務を説明できる。
- ・男性不妊症について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	生殖器（男性、女性） 生殖細胞形成 胚子発生	谷岡その
2	男性不妊治療施設の検査業務について	近内虹多
3	男性不妊症とは	近内虹多
4	生殖医療	内藤香奈
5	生殖補助医療	内藤香奈
6	胚培養士の検査業務	内藤香奈
7	体外受精について	内藤香奈
8	胚培養士の実践／試験	内藤香奈

教科書・参考書	参考書：『ラングマンの発生学』（株）メディカル・サイエンス・インターナショナル 『人体発生学』羊土社、『入門人体解剖学』南江堂
成績評価法	試験60点、出席40点とする。59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	遺伝子染色体検査学	担当教員	米良 信昭	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

遺伝子および染色体の異常が判断できるようになるために、遺伝子および染色体の特性、異常の原因、異常と疾患との関係を習得する。さらに、遺伝子および染色体の様々な検査が行えるようになるために、遺伝子および染色体の検査方法を理解する。本講義は遺伝子染色体の研究を行う担当教員がその実務経験を活かして行う。

【 到達目標（S B O） 】

- 1. 染色体の特性および染色体異常を理解している。
- 2. 染色体の検査方法を説明できる。
- 3. 遺伝子の特性および遺伝子異常を理解している。
- 4. 遺伝子の検査方法を説明できる。
- 5. 本講義内容に関する国家試験の問題を正答できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、染色体の基礎（常染色体・性染色体、標準型）	米良 信昭
2	ゲノム、細胞周期、対合、遺伝子の組換え	米良 信昭
3	染色体の異常（数の異常、その原因、代表的な疾患）	米良 信昭
4	染色体の異常（構造の異常、その原因、代表的な疾患）	米良 信昭
5	染色体異常の淘汰率、融合遺伝子、フィラデルフィア染色体	米良 信昭
6	染色体の検査方法（分染法、核型解析、Fish法）	米良 信昭
7	遺伝子の基礎（DNA、RNA、ヌクレオチド）、遺伝子の例	米良 信昭
8	ヒトゲノム解析、がん・がん抑制遺伝子、メンデルの法則	米良 信昭
9	セントラルドグマ、DNAの複製（テロメアの末端問題）、mRNAへの転写	米良 信昭
10	スプライシング、遺伝暗号、タンパク質への翻訳	米良 信昭
11	遺伝子の異常（突然変異、変異の原因、その疾患）	米良 信昭
12	単一遺伝病（常染色体優性[顕性]遺伝病、ハンチントン病 など）	米良 信昭
13	遺伝子治療、ゲノム編集（クリスパー配列）、再生医療	米良 信昭
14	体性幹細胞、ES細胞、iPS細胞（ノーベル賞）	米良 信昭
15	遺伝子の検査法（PCR法、シーケンス解析 など）	米良 信昭

教科書・参考書	教科書：最新 臨床検査学講座 遺伝子関連・染色体検査学 第3版 医歯薬出版
成績評価法	定期試験100点とし、59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外になる。
実務経験等	病院での実務経験なし
備考	国立の研究所での実務経験あり

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	社会情報学	担当教員	山本 貴之	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】 私たちの生活と「情報」は切っても切ることができないほど密接に入り組んでいる。今日までどのような変遷の下で発展し、それが私たちの生活にどのような変化を起こしたかを知ることによって現代社会を多角的な視点から観察する。 また私生活、仕事にかかわらず実際の生活において「情報」をどのように活用するか、発信するかを考えることで、情報社会の一員としての情報との接し方を身に付ける。
【 到達目標（S B O） 】 ・ 社会における情報環境の変化と役割の変遷を説明できる。 ・ 日常生活においてどのように情報と接しているか認識する。 ・ 医療、福祉の分野において情報がどのように扱われているかを説明できる。 ・ 情報を取り扱うにあたってどのような法制度が整備されているかを説明できる。 ・ 情報の活用と情報の発信に関する利益、不利益を理解し、適切な利用について説明できる。
【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション、社会情報学とSociety 5.0の暮らし	山本
2	生命体における情報と情報伝達の変遷	山本
3	コンピュータの登場とコミュニケーション空間	山本
4	社会システムへの活用	山本
5	デジタル化による生活の変化	山本
6	情報にかかわる法令 社会における法令の役割	山本
7	情報にかかわる法令2 情報法・知的財産権法	山本
8	情報社会の消費者法 成人としての生活の中の法	山本

教科書・参考書	授業は毎回プリントを配布する。参考図書などは授業内で適宜案内。
成績評価法	毎回の授業内テスト70点、記述・レポート30点、平常点も加味する。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	一般化学演習	担当教員	伊藤悦子・下垣 里河・飯島史朗	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

生命は、生体内の化学物質の変化によって維持されている。どのような物質がどのような役割を果たしているか、また、特定の化学物質の存在や量がどのように変化しているか、生体内の物質がどのような状態にあるかを調べるのが臨床検査である。つまり、臨床検査技師にとって、化学物質の性質と反応を理解することや物質の量を正しく把握することが大変重要である。本科目では、これから学ぶ専門科目に必要な基本的な知識を学ぶとともに臨床検査の理解に活用するための知識を身につける。高校の化学や、濃度計算等に必要な基本事項について、理解が不足している学生でも、臨床検査の応用例を考えながら学んで、確実な理解につなげる。

【到達目標（SBO）】

- 1) 臨床検査や医療全般現場で必要とされる単位の種類と利用目的を説明できる。
- 2) 化学物質の物質質量および濃度について正しく計算できる。
- 3) 生体成分を構成する元素、原子と分子の成り立ちを説明できる。
- 4) イオンの成り立ちと性質について説明できる。
- 5) 生体成分を構成するための化学結合や相互作用を説明できる。
- 6) 臨床検査の測定対象になる物質の状態変化を説明できる。）
- 7) 臨床検査の対象となる化学物質の構造と性質を説明できる。
- 8) 生体内の化学反応の仕組みを説明し、例示できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	確認テスト、生命・健康・医療・数学と化学とのつながり	下垣
2	臨床検査に必要な計算の基礎	下垣
3	元素、周期表、特徴的な族の性質	下垣
4	原子とイオン、分子の成り立ち	下垣
5	単位と物質の量（1）	下垣
6	単位と物質の量（2）	伊藤
7	中間試験	伊藤
8	化学結合、分子間相互作用（1）	伊藤
9	分子間相互作用（2）	伊藤
10	物質の状態変化、気体の性質、水溶液の性質	下垣
11	有機化合物の基本：名前と性質	飯島
12	酸と塩基、pH、電離度	下垣
13	中和反応と緩衝の仕組み	飯島
14	酸化と還元、イオン化傾向	下垣
15	からだの中の化学物質と反応：酵素、ビタミン、活性酸素	伊藤

教科書・参考書	教科書：『ここからはじめる臨床検査の計算入門』井川俊彦 医歯薬出版、プリント
成績評価法	定期試験45点、中間試験45点、平常点10点、計100点で評価する。59点以下は不可。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	ウェルネス		担当教員 鈴木ナタリー・ 歯科衛生士科専任	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 1 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

ウェルネスの概念を理解する

【到達目標（SBO）】

- ・ピラティスを通じて健康についての理解ができる
- ・歯科衛生士の業務内容を通して口腔の健康について理解を深めることができる

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ウェルネスとは～みんなで健康について考える	鈴木ナタリー
2	ピラティス～自分のカラダを知る	鈴木ナタリー
3	歯科治療について	細矢 尚子
4	歯周組織について	遠水 千恵
5	口腔ケア商品について	大島 幸子
6	お金と健康～投資と借金	鈴木ナタリー
7	食べ物について考える	鈴木ナタリー
8	口腔清掃実習 （第2校舎）	大島 幸子
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

教科書・参考書	配布プリント
成績評価法	態度、出席など総合的に評価する
備考・実務経験等	実務経験：病院等で歯科衛生士としての勤務経験

2026年度

シラバス

1年生

【前期】

【後期】

- ① 栄養学
- ② 病態薬理学
- ③ 遺伝子染色体検査学実習
- ④ 再生医療学
- ⑤ チーム医療総論
- ⑥ 医療情報システム学
- ⑦ 生化学
- ⑧ 医療情報システム学実習
- ⑨ 医療安全管理学
- ⑩ 病態学
- ⑪ 血液学
- ⑫ 臨床検査医学総論
- ⑬ 医療機器工学
- ⑭ 解剖生理学実習
- ⑮ 臨床生理学
- ⑯ 保健福祉論
- ⑰ 微生物学
- ⑱ 免疫学

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野	
授業科目名	栄養学		担当教員	財津 恵美	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

どのような種類の栄養素があるのか
どのようにして体内に取り込まれるのか
栄養素は体内でどのように利用されるのか

なぜ栄養について学ぶのか、栄養について興味をもってもら

【 到達目標（S B O） 】

栄養に関する基礎的な知識を習得できる
消化吸収について理解する
日常生活や今後の業務に活かすことのできる栄養に関する基礎知識を習得する

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス	財津
2	五大栄養素	財津
3	消化吸収	財津
4	栄養素の働き	財津
5	機能性食品	財津
6	ライフステージ別栄養バランス	財津
7	病態栄養	財津
8	症状別栄養のとり方	財津

教科書・参考書	レジュメとプリントを作成するので教科書は使用しません
成績評価法	定期試験70点 小テスト20点 プリント提出10点
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	病態薬理学	担当教員	田村 幸彦	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

医療の高度化を背景に、臨床検査技師が医療従事者として医薬品の薬理作用を理解し薬物を安全かつ効果的に活用するために必要な基礎的知識を習得する

【 到達目標（S B O） 】

- 1. 薬の作用機序、薬物動態、薬理作用に影響する因子および有害作用について概説できる。
- 2. 医薬品の剤形、薬物保管方法および処方箋と薬事関連法規について概説できる。
- 3. 食品と医薬品の相加作用・相乗作用や拮抗作用について概説できる。
- 4. 中枢神経系・循環器系・呼吸器系作用薬など器官別薬物の特長とその薬理作用について概説できる。
- 5. ジェネリック医薬品、コンパニオン診断薬について概説できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	薬理学総論1（医薬品の分類、日本薬局方、OTC薬、オーファンドラッグ）	田村幸彦
2	薬理学総論2（後発医薬品、コンパニオン診断薬、薬理作用の基本様式）	田村幸彦
3	薬理学総論3（薬物療法の種類、薬物の作用機序）	田村幸彦
4	薬理学総論 4（医薬品副作用被害救済制度、薬理効果の要因）	田村幸彦
5	薬理学総論5（プラセボ効果、二重盲検法、薬物動態）	田村幸彦
6	薬理学総論6（薬物濃度モニタリング、コンプライアンス、医薬品開発）	田村幸彦
7	器官別薬理学1（中枢神経系・循環器系・呼吸器系）	田村幸彦
8	器官別薬理学2（消化器系・炎症・感染症）	田村幸彦

教科書・参考書	参考書：「今日の治療薬 2026」南江堂、最新 臨床検査学講座「チーム医療論」医歯薬出版
成績評価法	定期試験90点、小テスト10点で総括的評価を行う。授業への取組み、出席等を総括的評価で加味する。なお59点以下は不可、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となる。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	遺伝子染色体検査学実習	担当教員	米良 信昭	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

遺伝子および染色体の異常が判断できるようになるために、細胞周期での染色体の形態およびヒトの核型解析、遺伝子の取り扱い方、DNA抽出、PCR増幅、ゲル電気泳動および結果の読み方 を習得する。本実習により、遺伝子および染色体を用いた検査方法の基本原則を理解する。本実習は遺伝子染色体の研究を行う担当教員がその実務経験を活かして行う。

【 到達目標（S B O） 】

- 1. 染色体の特性を説明できる。
- 2. 染色体の核型解析を行える。
- 3. 遺伝子を正しく取り扱える。
- 4. PCR検査法を説明できる。
- 5. 本実習内容に関する国家試験の問題を正答できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	本実習の全体説明（ガイダンス）、レポートの書き方	米良 信昭
2	ニンニクの根を用いた染色体の観察（分裂期）1	米良 信昭
3	ニンニクの根を用いた染色体の観察（分裂期）2	米良 信昭
4	ヒトの核型作製および解析 1	米良 信昭
5	ヒトの核型作製および解析 2	米良 信昭
6	酵母細胞からのDNA抽出とその定量 1	米良 信昭
7	酵母細胞からのDNA抽出とその定量 2	米良 信昭
8	口腔粘膜細胞からのヒトDNAの抽出（自分のDNA）1	米良 信昭
9	口腔粘膜細胞からのヒトDNAの抽出（自分のDNA）2	米良 信昭
10	ヒトに存在するp53遺伝子のPCR増幅 1	米良 信昭
11	ヒトに存在するp53遺伝子のPCR増幅 2	米良 信昭
12	ヒトPCR産物のアガロースゲル電気泳動 1	米良 信昭
13	ヒトPCR産物のアガロースゲル電気泳動 2	米良 信昭
14	電気泳動の結果の読み方（定性）、実習のまとめ 1	米良 信昭
15	電気泳動の結果の読み方（定性）、実習のまとめ 2	米良 信昭

教科書・参考書	教科書：最新 臨床検査学講座 遺伝子関連・染色体検査学 第3版 医歯薬出版
成績評価法	出席25点、レポート25点および定期試験50点の合計100点で評価する。59点以下は不可とする。出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外になる。
実務経験等	病院での実務経験なし
備考	国立の研究所での実務経験あり

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	再生医療学	担当教員	小島宏司、日下部智美	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

再生医療学について一般的な知識と世界最先端の医療について知る。
人体の発生や正常な細胞と組織構造を理解する。
呼吸生理について学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

幹細胞について説明できる。
再生医療における法律について知る。
呼吸機能検査が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス・授業の進め方・病院における臨床検査技師の役割	小島宏司
2	細胞について・幹細胞・組織工学について	小島宏司
3	呼吸器領域における再生医療の実際	小島宏司
4	移植医療と再生医療の法律について	小島宏司
5	呼吸生理と呼吸機能検査	小島宏司
6	再生医療の業務①	日下部智美
7	再生医療の業務②	日下部智美
8	再生医療のについてのまとめ	谷岡その

教科書・参考書	参考書：幹細胞 朝倉書店、再生医療新法 医歯薬出版、生理機能検査学 医歯薬出版 配布資料
成績評価法	授業内評価（レポート100％）。出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となる。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	チーム医療総論		担当教員	堀井 隆
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	1 学年
			単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

チーム医療は、医療専門職がそれぞれの専門知識を活かしてチームを形成し、患者に安心、安全の医療を提供するものである。その実践には多職種が密に連携して医療を行うことが求められる。そのために臨床検査のみならず他の専門分野の知識が不可欠であり、チーム医療における臨床検査技師の役割と業務について理解を深め、その重要性を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) チーム医療における臨床検査技師の役割を理解し、説明ができる。
- 2) チーム医療におけるコミュニケーションスキルを理解し、説明ができる。
- 3) 臨床検査技師がかかわるチーム医療を理解し、説明ができる。
- 4) チーム医療に求められる知識について理解し、説明ができる。
- 5) 認知症について理解し、説明ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨床検査技師と多職種連携・チーム医療	堀井
2	チーム医療を支えるコミュニケーションスキル	堀井
3	チーム医療を支えるコミュニケーションスキル	堀井
4	チーム医療の実際	堀井
5	チーム医療の実際	堀井
6	チーム医療に求められる知識 栄養学	堀井
7	チーム医療に求められる知識 薬理学	堀井
8	認知症	堀井

教科書・参考書	教科書：臨床検査学講座 チーム医療総論／多職種連携・栄養学・薬理学・認知症（医歯薬出版）
成績評価法	定期試験90点、小テスト10点。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので、注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科I部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☒ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野		
授業科目名	医療情報システム学		担当教員	石川 博久		授業形態	☒ 講義	☐ 実習	
開講時期	☐ 前期		☒ 後期		学 年	1 学年		単位数	1

【 一般目標（G I O） 】 コンピュータが扱う情報、論理演算、コンピュータの構造、ソフトウェアの役割、ネットワーク技術とセキュリティ対策、データベース技術などの基本的事項を習得し、医療及び臨床検査における情報技術の役割を理解する。
【 到達目標（S B O） 】 1) 二進数と論理演算を理解し簡単な計算ができる。 2) ハードウェアとソフトウェアの役割を理解し動作の流れを説明できる。 3) コンピュータ同士がネットワークシステムを介してどのように通信するのかを説明できる。 4) インターネットの仕組みとセキュリティ対策の意義について説明できる。 5) 病院情報システム及び臨床検査情報システムの概要を説明できる。

【 授業内容 】		
回	授 業 内 容	担当教員
1	授業方針説明、基数変換、論理演算	石川
2	基数変換、論理演算	石川
3	ハードウェアとソフトウェア	石川
4	ネットワーク、データベース、情報セキュリティ	石川
5	病院情報システム(HIS)と臨床検査情報システム(LIS)	石川
6	臨床検査技師の方向性、インターネットの情報と信頼性 他	石川
7	臨床における情報-HIS と LIS、新型コロナと臨床検査、国家試験 他	石川
8	総復習、テスト対策	石川

教科書・参考書	教科書：情報科学（医歯薬出版 松戸隆之著）
成績評価法	定期試験 60 点、出席 40 点とする。59 点以下は不可とする。 なお、出席が 2/3 以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☒ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	生化学		担当教員	石川 博久	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	1 学年	単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

医療における臨床検査の役割は大きく、日々迅速で精確な検査を求められる。
物質を対象とした検体検査に、物質の基礎的な化学性質を踏まえた化学反応及び生体内物質の構造や役割と生合成代謝メカニズムなどの理解は検査対象の本質を理解することに寄与し、新しい検査法などにも柔軟な対応力を身に着けられる。
本講義では有機化学を主とした基礎化学を学び生体内化合物の構造や性質、代謝機序を学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 物質の構成を原子・分子レベルから理解し、構造式を理解する。
- 2) 基本的な化学反応を理解し、生体内反応や測定原理を理解する。
- 3) 糖の化学的性質を理解し、特にグルコースの生体内機能や代謝を理解する。
- 4) 脂質の化学的性質を理解し、脂肪酸やコレステロール等の生体内機能や代謝を理解する。
- 5) アミノ酸及び蛋白質の化学的性質を理解し、生体内機能や代謝を理解する。
- 6) 核酸、酵素、ビタミンホルモンの構造や機能を理解する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	原子と分子、周期表、化学結合	石川
2	極性、水	石川
3	化学反応	石川
4	酸と塩基、pH、酸化と還元	石川
5	無機物（種類と特徴、生体内の機能）	石川
6	有機化合物	石川
7	糖質 1（種類と構造）	石川
8	糖質 2（生体の役割、解糖系、TCA 回路）	石川
9	糖質 3（糖新生、エネルギー）	石川
10	脂質 1（種類と脂肪酸・コレステロールの構造）	石川
11	脂質 2（ β 酸化と脂肪酸合成）	石川
12	脂質 3（コレステロール、リポタンパク質）	石川
13	蛋白質 1（アミノ酸の構造と種類）	石川
14	蛋白質 2（蛋白質の構造、尿素回路）	石川
15	酵素 1（特徴、分類、補酵素）	石川
16	酵素 2（反応速度式、種類）	石川
17	ビタミン、ホルモン	石川
18	核酸（構造と種類）、ポルフィリン代謝とビリルビン	石川
19	まとめ	石川
20	まとめ・テスト対策	石川

教科書・参考書	教科書： 臨床化学 医学書院
成績評価法	定期試験の点数に出席と授業態度と理解度を加味する。
備考・実務経験等	実務経験：臨床検査技師として病院勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	医療情報システム学実習	担当教員	石川博久 須貝遥揮	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査業務における情報処理及び情報提示を円滑に可能とするために、Windows Office 系アプリケーションソフトウェアを用いて各種情報を整理・加工し、発信する技術を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) コンピュータの基本的な操作ができる。
- 2) 文書作成ソフト(Word)を用いて書式に則った文書作成ができる。
- 3) 表計算ソフト(Excel)の基本的な操作、表の作成、簡単な関数による統計処理ができる。
- 4) プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本的な操作ができる。
- 5) Office 系ソフトを活用して演題を分かりやすくプレゼンテーションができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	授業方針説明、コンピュータの基本操作	石川・須貝
2	Word を用いた文書作成(フォント、改ページ、ヘッダー/フッター)、課題 1	石川・須貝
3	Excel を用いた表の作成①(基本的な操作法、四則演算、基本的な関数)	石川・須貝
4	Excel を用いた表の作成②(便利な関数、条件付き書式、マクロ)、課題 2	石川・須貝
5	課題 2、PowerPoint を用いたプレゼンテーション①(使い方)	石川・須貝
6	課題 3、PowerPoint を用いたプレゼンテーション②(資料作成)	石川・須貝
7	PowerPoint を用いたプレゼンテーション③(スライド・原稿作成、資料準備)	石川・須貝
8	PowerPoint を用いたプレゼンテーション④(スライド・原稿作成、資料準備)	石川・須貝
9	PowerPoint を用いたプレゼンテーション⑤(スライド・原稿作成、資料準備)	石川・須貝
10	PowerPoint を用いたプレゼンテーション⑥(スライド・原稿作成)	石川・須貝
11	PowerPoint を用いたプレゼンテーション⑦(スライド・原稿作成)	石川・須貝
12	プレゼンテーションの進行手順(発表順と座長の役割)	石川・須貝
13	プレゼンテーション①	石川・須貝
14	プレゼンテーション②	石川・須貝
15	プレゼンテーション③	石川・須貝
16	プレゼンテーション④、総括	石川・須貝

教科書・参考書	なし
成績評価法	出席 16 点、授業内課題 1 及び 2 14 点、プレゼンテーション参加 50 点、プレゼンテーション前資料・発表内容・参加姿勢 20 点、課題・参加姿勢等による加点・減点有
備考・実務経験等	石川 実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	医療安全管理学		担当教員 高平雅和・廣上祐子・佐藤佑樹	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年 1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査技師としての医療現場における医療安全と感染管理および検体採取について学習する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 臨床検査技師としての必要な医療安全が身につく、医療現場での安全な医療が提供できる知識を身に着ける
- 2) 医療現場における感染防止の知識を身に着ける
- 3) 安全な検体採取・採血に対する知識を身に着ける

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨床検査技師と患者のかかわり	高平
2	医療倫理	高平
3	医療安全概論	高平
4	医療安全概論	高平
5	医療安全の基礎知識	高平
6	医療安全の基礎知識	高平
7	医療安全の基礎知識	高平
8	医療安全推進	高平
9	医療事故	高平
10	採血の目的と手順	廣上
11	安全な採血に対する基礎知識	廣上
12	感染対策の意義と考え方	佐藤
13	個人防護具の使用法、手指衛生	佐藤
14	感染経路予防策、ワクチン予防、アウトブレイク	佐藤
15	チーム医療における感染対策業務の実践	佐藤

教科書・参考書	医療安全管理学（医歯薬出版株式会社）
成績評価法	定期試験60点以上 なお出席が2/3以下の場合は評価対象外
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務（各医療安全、感染管理、採血室）

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野	
授業科目名	病態学		担当教員	藤田 浩司	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

人体に起こる病気（疾病、疾患）の概念を理解し、病気の発生機序（病理）およびメカニズム（病態）を習得することを目的とする。

【 到達目標（S B O） 】

- 1)病気を細胞，組織，臓器レベルで考える力をつける。
- 2)病気によって起こる生体変化を説明できる。
- 3)炎症の及ぼす生体変化を説明できる。
- 4)腫瘍が生体に及ぼす影響を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	総論 病態学の概要	藤田
2	総論 細胞・細胞とその障害，再生と修復	藤田
3	総論 炎症，免疫とアレルギー	藤田
4	総論 代謝異常	藤田
5	総論 腫瘍	藤田
6	各論 循環器疾患	藤田
7	各論 呼吸器疾患	藤田
8	各論 消化管疾患	藤田
9	各論 肝・胆・膵疾患	藤田
10	各論 内分泌系疾患	藤田
11	各論 腎・尿路・男性生殖器疾患	藤田
12	各論 女性生殖器疾患	藤田
13	各論 乳腺疾患	藤田
14	各論 脳 腫瘍と神経疾患	藤田
15	総合 まとめ	藤田
16	総合 まとめ	藤田

教科書・参考書	カラーで学べる病理学 第6版
成績評価法	定期試験 100点
備考・実務経験等	大学病院病理診断部（15年間勤務）から大学分子病理学へ移籍（25年間勤務中）

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☒ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	血液学		担当教員	大谷 英夫	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数 2

【一般目標（GIO）】

2学年での血液検査学実習と講義のベースとなる「血液の基礎知識」となる。

ヒトの体重の約8%を占める血液は、さまざまな機能を有し生命の維持に重要な役割を担っていることを理解し、その知識を習得することを目指す。血液のうち約45%が血球（＝有形成分）とよばれる赤血球・白血球・血小板で構成され、各血球がどこで産生されどのような段階を経て正常な血球となるのかを理解することを目指す。正常な血球の産生にはいろいろな因子が関与している、それらの代謝などについても理解し正しい知識を身に付けることを目標とする。

【到達目標（SBO）】

血液の基礎（成分・性状・機能）について説明できる。

各血球（赤血球・白血球・血小板）の産生について説明できる。

各血球の形態と機能について説明できる。

赤血球の生化学について説明できる。

止血機構について説明できる。

血液凝固と線維素溶解について説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス	大谷
2	検体の採取と管理 血液の基礎1（成分）	大谷
3	血液の基礎2（性状・機能）	大谷
4	血液の基礎3（胎生期造血と血球の分化・成熟）	大谷
5	血液の基礎4（造血器官）	大谷
6	赤血球の分化・成熟（形態）と機能	大谷
7	赤血球の生化学1（ヘモグロビンの代謝）	大谷
8	赤血球の生化学2（鉄とビタミンB ₁₂ の代謝）	大谷
9	白血球の分化・成熟（形態）と機能	大谷
10	白血球（顆粒球以外）の成熟と機能	大谷
11	血小板の分化・成熟（形態）	大谷
12	血小板の機能と止血機構（一次止血）	大谷
13	止血機構（血液凝固）	大谷
14	止血機構（線維素溶解）	大谷
15	血液学総括	大谷

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「血液検査学」医歯薬出版 参考書：病気がみえるvol.5「血液」メディックメディア
成績評価法	定期試験60点、確認テスト40点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	臨床検査医学総論		担当教員	松木 由法	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

病気の原因、病気の発症・進行の過程、機能の変化など患者における病態を理解する。
各疾病の発生にかかわる基本的な仕組み、身体への影響を理解し診断方法や検査法、治療に関する基本的な考えを理解する。

【 到達目標（S B O） 】

細胞・組織の損傷や修復、炎症、感染症、循環障害、代謝障害、腫瘍などの疾病の概念を学び説明できる。
循環器、呼吸器、消化器、腎・泌尿器、生殖器・内分泌など各々の臓器における代表的な疾患の概要を理解し、それぞれに必要な検査法を正確に選択して説明ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	病気の原因、細胞・組織の損傷と再生・修復	松木
2	アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全症と検査	松木
3	循環器①血管、心臓の疾患と検査	松木
4	循環器②：血管、心臓の疾患と検査	松木
5	呼吸器①：気管・肺などの疾患と検査	松木
6	呼吸器②：気管・肺などの疾患と検査	松木
7	消化器①：食道・胃・腸などの疾患と検査	松木
8	消化器②：肝臓・胆のう・膵臓などの疾患と検査	松木
9	腎・泌尿器の疾患と検査	松木
10	生殖器、乳腺の疾患と検査	松木
11	内分泌器：下垂体、甲状腺、副腎などの疾患と検査	松木
12	血液・造血器①の疾患と検査	松木
13	血液・造血器②の疾患と検査	松木
14	脳・神経・筋肉の疾患と検査	松木
15	各項目で行った設問のまとめ、復習	松木

教科書・参考書	教科書「病態学/臨床検査医学総論」奈良信夫 医歯薬出版 参考書「病理学 疾病の成り立ちと回復の促進1」大橋健一 医学書院
成績評価法	定期試験 100点
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☒ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	医療機器工学			担当教員	須貝遥揮	授業形態	☒ 講義	☐ 実習
開講時期	☐ 前期		☒ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

医療検査機器にも用いられる工学の基礎知識を習得する。
臨床検査に必要な検査機器に関する原理・構造を十分理解する。

【 到達目標（S B O） 】

簡易な電気回路の読み解き、抵抗の計算ができる。
検査機器等より生じる電気による人体の影響を理解し、機器や設備の安全基準を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、検査機器と生体物性の関係、直流回路	須貝
2	直流回路、電力と仕事量の計算	須貝
3	交流回路、インダクタ、キャパシタ	須貝
4	微積回路、半導体	須貝
5	中間試験、増幅回路、デジタル回路	須貝
6	通信変調、センサ・トランスデューサ	須貝
7	生体物性、電気的安全対策	須貝
8	記録機、検査機器	須貝

教科書・参考書	教科書『最新 臨床検査学講座 医療工学概論』（株）医歯薬出版、配布資料
成績評価法	定期試験60点、中間試験20点、出席20点とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☒ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	解剖生理学実習		担当教員	小澤 英樹	授業形態	☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	1 学年	単位数	1

【 一般目標（G I O） 】

解剖生理学実習は病理学への導入であり、臓器の機能と顕微鏡で組織HE染色標本の観察により組織構造の基礎を学ぶ。また他の臨床検査項目との関連性も一緒に学ぶ（機能と検査）

【 到達目標（S B O） 】

1. 各器官の生理学的機能、そして組織の正常構造や正常細胞を学ぶ。
異なった器官、細胞組織構造を観察して構造を理解し、明確に鑑別する。
2. 組織構造を理解したうえで、スケッチを行い、各部位の名称を記入する。
関連する臓器や細胞、生理的機能も合わせて理解する。
3. 臓器別の正常組織から、どのような病変があるのかも合わせて理解する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	解剖生理学の基礎・組織学（標本作製法・顕微鏡の扱い方）講義のみ	小澤 谷岡
2	消化管：食道、胃、十二指腸、大腸	小澤 谷岡
3	消化管：食道、胃、十二指腸、大腸	小澤 谷岡
4	循環器：心臓、血管	小澤 谷岡
5	循環器：心臓、血管	小澤 谷岡
6	婦人科：子宮、卵管、卵巣 乳腺	小澤 谷岡
7	婦人科：子宮、卵管、卵巣 乳腺	小澤 谷岡
8	呼吸器：気管、肺	小澤 谷岡
9	呼吸器：気管、肺	小澤 谷岡
10	泌尿器：腎臓、膀胱 前立腺	小澤 谷岡
11	泌尿器：腎臓、膀胱 前立腺	小澤 谷岡
12	消化器：肝臓、膵臓、脾臓	小澤 谷岡
13	消化器：肝臓、膵臓、脾臓	小澤 谷岡
14	実技試験（顕微鏡判定）	小澤 谷岡
15	実技試験（スライド判定と解答）	小澤 谷岡

教科書・参考書	なし
成績評価法	講義試験は100点とする。内訳；定期筆記試験50点 実技試験50点（実習レポート評価14点、顕微鏡判定とスライド判定36点）
備考・実務経験等	実務経験：衛生検査所での勤務（病理学的検査とラボマネジメント業務）

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	臨床生理学			担当教員	東 博美		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期			学 年	1 学年		単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

人のからだがどのように働いているのかを体系的に理解し、医療や健康に関わるあらゆる判断の土台をつくる。
生理学は医学の基礎中の基礎であり、ここを押さえることで他の専門分野が理解しやすくなる。

【 到達目標（S B O） 】

- ① からだの仕組みを原理から理解する。
- ② 病気の理解につながる基礎をつくる。
- ③ 検査データや症状を正しく読み取る。
- ④ 患者さんの状態を総合的に理解する力をつける。
- ⑤ 医療従事者としての思考力・判断力を鍛える。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	消化器 ①	東 博美
2	消化器 ②	東 博美
3	消化器 ③	東 博美
4	小テスト ① 泌尿器 ①	東 博美
5	泌尿器 ②	東 博美
6	小テスト ② 内分泌 ①	東 博美
7	内分泌 ②	東 博美
8	小テスト ③ 神経 ①	東 博美
9	神経 ②	東 博美
10	神経 ③	東 博美
11	神経 ④	東 博美
12	小テスト ④ 感覚器 ①	東 博美
13	感覚器 ②	東 博美
14	感覚器 ③	東 博美
15	小テスト ⑤ まとめ	東 博美

教科書・参考書	教科書：読んでわかる解剖生理学（医学教育出版社）
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 定期試験 85点、出席点 15点（1点×出席日数）から成績評価を行う。 なお、出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院勤務勤務経験があり。実務経験に基づいて授業を行う。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☐ 基礎分野		☒ 専門基礎分野		☐ 専門分野		☐ 選択必修分野			
授業科目名		保健福祉論		担当教員		上野 芳人		授業形態		☒ 講義 ☐ 実習	
開講時期		☐ 前期 ☒ 後期		学 年		1 学年		単位数		1	

【一般目標（GIO）】

- 医学の歴史について学び、特に臨床検査に関係した歴史について学ぶ。
- わが国の医療制度や社会福祉の特徴とその全体像を理解し、医療人として幅広い知識を習得する。
- わが国の医療における現状や問題について学ぶ。
- 臨床検査技師のチーム医療への参画について具体的に学ぶ

【到達目標（SBO）】

- 医学の歴史とその歴史が臨床検査の歴史に密接に関係していることを説明できる。
- わが国の医療制度、医療保険制度、介護保険制度について説明できる。
- わが国の医療制度の現状と、その問題点について説明できる。
- わが国の医療制度と諸外国医療との違いについて説明できる。
- 特殊な医療（感染症医療、難病医療など）について説明できる。
- 患者の心理的特徴、患者の権利について説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	医学の歴史（古代から中世の主な医学）について	上野
2	医学の歴史（近代の主な医学）、病院の各部門の役割について。	上野
3	わが国の医療制度（医療計画および医療圏について）	上野
4	わが国の医療制度（救急医療およびへき地医療について）	上野
5	わが国の医療制度（生活習慣病について）	上野
6	わが国の医療制度（高齢者医療について）	上野
7	わが国の医療制度（終末期医療 精神疾患の医療について）	上野
8	わが国の医療制度（感染症医療について）	上野
9	わが国の医療制度（感染症医療、難病対策について）	上野
10	災害時の医療と臨床検査について	上野
11	わが国の医療提供体制（病院、病床、特定機能病院等について）	上野
12	わが国の医療提供体制（医療従事者の供給と各職種について）	上野
13	わが国の医療提供体制（国民医療費、社会保障、医療保険について）	上野
14	諸外国の医療制度について、患者の心理について	上野
15	患者の接遇、他職種との連携および患者の権利について まとめ	上野

教科書・参考書	高木康 編（最新臨床検査学講座 保健医療福祉概論）医師薬出版および配布資料
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	微生物学	担当教員	三崎 千恵美	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

微生物学の基礎となる微生物について学び、感染症の発症機序を体系的に理解する。また、感染症の診断や治療に関連する各種検査法を理解するとともに、医療現場における感染制御について学び、臨床検査技師として必要な基礎的能力を養う。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 真核生物と原核生物の違い、および細菌・真菌・ウイルスの基本的な特徴について説明できる。
- 2) 細菌の主な染色法とその原理について説明できる。
- 3) 主な消毒薬の分類と抗菌スペクトラムについて説明できる。
- 4) 主な耐性菌の種類とその耐性機構について説明できる。
- 5) 薬剤感受性試験の方法および耐性菌の検出方法について説明できる。
- 6) 医療関連感染の予防および感染防止対策について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	微生物の形態と構造	三崎
2	細菌の増殖と培養	三崎
3	細菌の染色方法	三崎
4	細菌の同定方法	三崎
5	消毒と滅菌	三崎
6	化学療法	三崎
7	ワクチン	三崎
8	感染と感染症、感染経路	三崎
9	食中毒、バイオセーフティー	三崎
10	感染症関連法規、医療関連感染	三崎
11	代表的な細菌（グラム陽性球菌、グラム陰性桿菌）	三崎
12	各種培地について	三崎
13	薬剤耐性菌	三崎
14	総括①	三崎
15	総括②	三崎

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「臨床微生物学 第2版」医歯薬出版
成績評価法	定期試験85点、出席15点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院での勤務 備考：理解度確認のため、授業内で簡単な確認問題を適宜行う。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	免疫学	担当教員	黒田 雅頭	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	1 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

免疫は微生物やウイルスなどの感染に対しての生体防御機構である。一方、腫瘍性疾患、自己免疫疾患など内部からの傷害に対する生体反応によっても免疫応答が引き起こされる。免疫応答の自己と非自己を識別して非自己を排除する免疫応答の仕組みは、裏を返せば自己に反応しないという自己寛容という原則が成り立っている。

本授業では2つの免疫機能、自然免疫と獲得免疫での生体防御機構について概説する。そして、免疫担当細胞であるリンパ球や免疫グロブリンに代表される細胞性免疫と液性免疫の構成要素について、その機能と役割について学習する。

【 到達目標（S B O） 】

- ①免疫系の概念について説明できる。
- ②免疫担当細胞を列举し、各々の機能と役割について説明できる。
- ③リンパ組織と免疫系で機能する液性因子について説明できる。
- ④自然免疫と獲得免疫の病原体認識の相違を説明できる。
- ⑤能動免疫と受動免疫について説明できる。
- ⑥自己寛容について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	免疫系の概念	黒田雅頭
2	リンパ組織、CD抗原、サイトカイン	黒田雅頭
3	免疫担当細胞の種類と機能	黒田雅頭
4	自然免疫の構成要素と機能	黒田雅頭
5	獲得免疫系への抗原提示	黒田雅頭
6	獲得免疫における抗原の認識	黒田雅頭
7	免疫グロブリンの特徴と機能	黒田雅頭
8	総合演習①	黒田雅頭
9	補体の構成要素と機能	黒田雅頭
10	補体の活性経路と臨床的意義	黒田雅頭
11	T細胞の活性化機構と役割	黒田雅頭
12	B細胞の抗体産生機構と役割	黒田雅頭
13	能動免疫と受動免疫、自己寛容	黒田雅頭
14	抗原と抗体の分類	黒田雅頭
15	総合演習②	黒田雅頭

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「免疫検査学/輸血・移植検査学」第2版 医歯薬出版
成績評価法	定期試験100点とする。出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外になる。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

2026年度 臨床検査技師科Ⅰ部 前期時間割

第2学年

時限	1			2			3			4				
時間	9:00 ～ 10:30			10:40 ～ 12:10			12:50 ～ 14:20			14:30 ～ 16:00				
月	キャリア デザインⅡ	細胞診検査学 谷岡		臨床免疫学 堀井			臨床微生物学 大塚		細胞診検査学実習 山口・松木		臨床微生物学 大塚		細胞診検査学実習 山口・松木	
火		画像検査学 東	生理機能検査学実習 東・三崎	画像検査学 東	臨床微生物学 大塚	生理機能検査学実習 東・三崎	細胞診検査学 谷岡	臨床微生物学 大塚	臨床検査マネジメント	臨床化学 飯島・下垣・伊藤				
水	移植免疫検査学 藤本	生理機能検査学実習 東		移植免疫検査学 藤本	生理機能検査学実習 東		病理検査学 谷岡			生理機能検査学Ⅰ 廣上・東				
木	血液検査学実習 東克巳・大谷						血液検査学 大谷			臨床病態学 牛尾				
金	病理検査学実習 松木・山口			病理検査学実習 松木・山口			臨床検査マネジメント 藤本	生理機能検査学実習 東	医療安全管理学実習 高平	臨床検査マネジメント 藤本	生理機能検査学実習 東	医療安全管理学実習 高平		
土	予 備 日													

2026年度 臨床検査技師科Ⅰ部 後期時間割

第2学年

時限	1		2		3		4	
時間	9:00 ～ 10:30		10:40 ～ 12:10		12:50 ～ 14:20		14:30 ～ 16:00	
月	キャリアデザインⅡ 前半終了科目試験 追再試験		臨床免疫学 堀井		RCPC 高平	臨床微生物学 大塚	RCPC 高平	臨床微生物学 大塚
火	移植免疫検査学 実習 藤本 他	生理機能検査学 実習 東・三崎	移植免疫検査学 実習 藤本 他	生理機能検査学 実習 東・三崎	移植免疫検査学 実習 藤本 他	臨床化学 飯島・下垣・伊藤	移植免疫検査学 実習 藤本 他	健康食品管理 総論 高橋
水	病理検査学 谷岡	生理機能検査学Ⅱ 東	生理機能検査学Ⅱ 河西		臨床微生物学 実習 大塚	臨床化学免疫 実習（免疫） 堀井	臨床微生物学 実習 大塚	臨床化学免疫 実習（免疫） 堀井
木	生理機能検査学Ⅱ 東	生理機能検査学 実習 青田	血液検査学 大谷	生理機能検査学 実習 青田	臨床微生物学 実習 大塚	臨床化学免疫 実習（化学） 飯島・下垣・伊藤	臨床微生物学 実習 大塚	臨床化学免疫 実習（化学） 飯島・下垣・伊藤
金	タスクシフト	生理機能検査学 実習 東	タスクシフト	生理機能検査学 実習 東	生理機能検査学Ⅰ 東	画像検査学実習 小島・東	臨床化学 飯島・下垣・伊藤	画像検査学実 習 小島・東
土	予 備 日							

2026年度

シラバス

2年生

【前期】

- ① キャリアデザインⅡ
- ② 臨床免疫学
- ③ 臨床微生物学
- ④ 細胞診検査学実習
- ⑤ 画像検査学
- ⑥ 生理機能検査学実習
- ⑦ 細胞診検査学
- ⑧ 臨床化学
- ⑨ 移植免疫検査学
- ⑩ 病理検査学
- ⑪ 生理機能検査学Ⅰ
- ⑫ 血液検査学実習
- ⑬ 血液検査学
- ⑭ 臨床病態学
- ⑮ 臨床検査マネジメント
- ⑯ 病理検査学実習
- ⑰ 医療安全管理学実習

【後期】

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☒ 基礎分野		☐ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野	
授業科目名	キャリアデザインⅡ			担当教員	東 博美	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期		学 年	2 学年		単位数	1

【一般目標（GIO）】

社会人として必要な資質能力を形成していくことができるよう、教育課程内外にわたり、施設見学・学会参加を通して自己能力を高める。

学生が自ら向上できるよう、教育活動全体を通じて支援する。

【到達目標（SBO）】

- ① 学内外のイベントに参加して自己能力を高める。
- ② 臨地実習ガイダンス・講演等を通して医療従事者を目指すものとしての意識を高める。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション	東
2	ガイダンス①	東
3	日本臨床検査技師会、東京都臨床検査技師会、学生会員について	東
4	オープンキャンパス参加	東
5	オープンキャンパス参加	東
6	臨地実習ガイダンス①	東
7	臨地実習について 3年生から2年生への報告	東
8	臨地実習ガイダンス②	東
9	臨地実習ガイダンス③	東
10	臨地実習ガイダンス④	東
11	租税教室	東
12	ガイダンス②	東
13・14	卒業式参列	東
15	ガイダンス③	東

教科書・参考書	教科書：臨地実習ノート 医歯薬出版株式会社 教科書：臨地実習ハンドブック 医歯薬出版株式会社
成績評価法	出席（60点）レポート（40点）。59点以下は不可とする なお、出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	臨床免疫学			担当教員	堀井 隆		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期			学 年	2 学年		単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

免疫系の仕組みを理解し、免疫学的検査が有用な疾患について臨床現場で実践できるための知識を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1）免疫系の仕組みを理解し、説明できる。
- 2）免疫学的検査が有用な疾患について理解し、説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	免疫系の構成要素	堀井
2	自然免疫	堀井
3	MHC分子による獲得免疫系への抗原提示	堀井
4	抗体の構造と機能	堀井
5	獲得免疫	堀井
6	補体系の役割	堀井
7	能動免疫・受動免疫・免疫の発達と老化	堀井
8	免疫学的検査が有用な感染症	堀井
9	免疫学的検査が有用な感染症	堀井
10	免疫学的検査が有用な感染症	堀井
11	アレルギー	堀井
12	自己免疫疾患	堀井
13	自己免疫疾患	堀井
14	M蛋白血症	堀井
15	原発性免疫不全症	堀井

教科書・参考書	教科書：臨床検査学講座 免疫検査学／輸血・移植検査学 （医歯薬出版）
成績評価法	定期試験90点、小テスト10点。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので、注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野	
授業科目名	臨床微生物学		担当教員	大塚正之	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	2 学年	単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

感染症領域で問題となる微生物について、その形態・染色性・培養法・生化学的性状などの各種検査法の原理と手技を体系的に理解する。また、近年世界的に深刻化している薬剤耐性菌（AMR）についても学び、感染症の的確な診断および治療に直結する検査法の知識を総合的に身につけることを目標とする。

【 到達目標（S B O） 】

- 1）感染症の起炎菌となり得る各種細菌について、形態、染色性、培養法、生化学的性状を説明できる。
- 2）細菌検査に用いる各種培地の特徴を理解し選択することができる。
- 3）各種検査材料において、どの様な微生物が起炎菌となり得るのか説明できる。
- 4）一般細菌、嫌気性菌、抗酸菌、真菌、ウイルスの特徴を理解し説明することができる。
- 5）各種耐性菌の検出方法が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、細菌検査の流れ、方法	大 塚
2	グラム陽性球菌①（Staphylococcus spp. /Micrococcus spp.）	大 塚
3	グラム陽性球菌②（Streptococcus spp. /Enterococcus spp.）	大 塚
4	グラム陰性球（桿）菌（Neisseria spp./Moraxella spp.）（ポストテスト①）	大 塚
5	腸内細菌目細菌①（抗菌薬・耐性菌・生化学性状試験）	大 塚
6	腸内細菌目細菌②（Escherichia spp./Shigella spp./ Salmonella spp./Yersinia spp.）	大 塚
7	腸内細菌目細菌③（Klebsiella spp./Citrobacter spp./ Serratia spp./Proteus spp.）	大 塚
8	ブドウ糖発酵グラム陰性桿菌①（Vibrio spp./Plesiomonas spp./ Aeromonas spp.）	大 塚
9	ブドウ糖発酵グラム陰性桿菌②（Pasteurellaceae） その他のグラム陰性桿菌	大 塚
10	ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌（Pseudomonas spp./Burkholderia spp./Ste notrophomonas spp./Acinetobacter spp.）（ポストテスト②）	大 塚
11	微好気性菌（Campylobacter spp. /Helicobacter spp.）	大 塚
12	グラム陽性桿菌（Bacillus spp./Listeria spp./Corynebacterium spp.）	大 塚
13	抗酸菌（Mycobacterium spp. /Nocardia spp.）	大 塚
14	偏性嫌気性菌	大 塚
15	前期総括	大 塚

教科書・参考書	最新臨床検査学講座「臨床微生物学」医歯薬出版（教科書）
成績評価法	ポストテスト30%および定期試験70%の割合で総合的に評価する。 80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。
備考・実務経験等	実務経験：病院・検査センターでの勤務経験有り

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	細胞診検査学実習		担当教員 山口みはる・松木由法・谷岡その	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

- 1) 細胞診検体に必要な知識や標本作製法を理解する。
- 2) 標本作製の不具合や染色不良を判断し改善できる能力を養う。
- 3) 正常細胞と炎症細胞、がん細胞の形態の違いを理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 喀痰や尿検体の適切な処理法や染色法を選択し作製できる
- 2) 作製した標本を観察・スケッチし、固定や染色法などの目的、意義や注意点などを説明できる。
- 3) 婦人科、呼吸器、体腔液、尿の正常細胞、炎症細胞及び癌細胞の違いを説明できる。
- 4) 細胞診のクラス分類やベセスダシステムを説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	婦人科：標本鏡検・スケッチ	山口・松木・谷岡
3・4	婦人科：標本鏡検・スケッチ、呼吸器：喀痰標本作製 パパニコロウ染色	山口・松木・谷岡
5・6	呼吸器：標本鏡検・スケッチ	山口・松木・谷岡
7・8	体腔液：鏡検・スケッチ 組織アルシアン青染色、PAS反応	山口・松木・谷岡
9・10	尿の標本作製、パパニコロウ染色、May-Giemsa染色	山口・松木・谷岡
11・12	尿、体腔液の鏡検・スケッチ、オイルレッドO染色	山口・松木・谷岡
13・14	組織 ベルリンブルー染色、チールネルゼン染色、鏡検・スケッチ	山口・松木・谷岡
15・16	実技試験：鏡検・スライド	山口・松木・谷岡

教科書・参考書	教科書：「病理学/病理検査学」医歯薬出版、配付資料 参考書：「スタンダード細胞診テキスト」医歯薬出版
成績評価法	100点満点でレポート・スケッチ30点、実技試験30点、定期試験30点、授業への取り組み10点で成績評価を行う。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	画像検査学		担当教員 東 博美	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

- ① 超音波検査の原理や測定法を理解する。
- ② 正しい走査法の習得
- ③ 臓器の正常像の理解
- ④ 検査中の患者の安全の確保
- ⑤ 検査機器の原理を理解する。
- ⑥ 臨床検査に関する専門性を生かして認知症の診断、治療を担当するチーム医療の一員として活躍している。

【到達目標（SBO）】

1. 超音波検査の原理を理解する。
2. 人体の構造を理解し画像検査の基礎を理解する。
3. 正確な診断と適切な治療につながる客観的に判断することができる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	超音波検査の基礎①	東 博美
2	超音波検査の基礎②	東 博美
3	超音波検査の基礎③	東 博美
4	小テスト① 体表領域超音波検査①	東 博美
5	体表領域超音波検査②	東 博美
6	小テスト② 腹部超音波検査①	東 博美
7	腹部超音波検査②	東 博美
8	腹部超音波検査③ 骨盤腔超音波検査①	東 博美
9	小テスト③ 心臓超音波検査①	東 博美
10	心臓超音波検査②	東 博美
11	心臓超音波検査③	東 博美
12	小テスト④ 血管領域超音波検査	東 博美
13	MRI検査①	東 博美
14	MRI検査②	東 博美
15	認知症検査 超音波検査のまとめ	東 博美

教科書・参考書	教科書：生理機能検査学 第2版 （医歯薬出版）、これから始める心エコー、配布資料
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 定期試験 85点、出席点 15点（1点×出席日数）から成績評価を行う。 なお、出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院勤務勤務経験があり。実務経験に基づいて授業を行う。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生理機能検査学実習	担当教員	東博美 三崎千恵美	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

- ① 心電図の基本原理と波形を理解する。
- ② 正確な検査主義の習得をする。
- ③ 患者さんへの対応力を学ぶ。
- ④ 異常時の対応や判断力の基礎を学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- ① 心臓の電氣的活動がどのようにして現れるのかを理解する。
- ② 正常波形と異常波形の違いを見分ける。
- ③ 電極の正しい位置を理解し、誤差のない記録を行う。
- ④ 体位、皮膚処理、電極の固定など、アーチファクトを減らす技術を身に着ける。
- ⑤ 検査の説明や声掛けなど、安心して検査を受けてもらうためのコミュニケーションをとる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨地実習前技能試験の被検者	東・三崎
2	臨地実習前技能試験の被検者	東・三崎
3	心電図検査①	東・三崎
4	心電図検査②	東・三崎
5	心電図検査③	東・三崎
6	心電図検査④	東・三崎
7	負荷心電図検査①	東・三崎
8	負荷心電図検査②	東・三崎

教科書・参考書	教科書：生理機能検査学 第3版（医歯薬出版）、配布プリント
成績評価法	実習全体を100点満点として採点する。 定期試験50点、レポート40点、出席点10点から成績評価を行う。 なお、出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	細胞診検査学			担当教員	谷岡その	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習	
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期			学 年	2 学年	単位数	1	

【 一般目標（G I O） 】

- 1) 細胞学的検査法（細胞診）の意義、利点欠点を理解する。
- 2) 処理方法、染色方法を理解する。
- 3) 細胞診断の基礎知識を理解する。
- 4) 細胞診断の検査結果を理解する。
- 5) 細胞診の免疫組織化学染色を理解する。
- 6) 実習授業に連動した講義とする。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 細胞診の意義、利点欠点を説明できる。
- 2) 処理方法、染色方法を説明できる。
- 3) 細胞診断の基礎知識を説明できる。
- 4) 細胞診断の検査結果（ベセスダ・システム、日母分類、集団検診における喀痰の判定基準）を説明できる。
- 5) 細胞診の免疫組織化学染色の特徴を説明できる。
- 6) 実習授業の予習復習として理解を深める。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	総論：細胞診の意義、利点欠点、検体採取法	谷岡
2	総論：細胞診検査手順、検体処理の方法、細胞診検査手順	谷岡
3	総論：固定法、染色方法：Papanicolaou染色、Giemsa染色	谷岡
4	各論：婦人科領域の細胞診 主な病変 小テスト①	谷岡
5	各論：婦人科領域の細胞診 細胞像を理解	谷岡
6	各論：呼吸器領域の細胞診 主な病変	谷岡
7	各論：呼吸器領域の細胞診 細胞像を理解 小テスト②	谷岡
8	各論：消化器領域、泌尿器領域、体腔液の細胞診	谷岡
9	各論：消化器領域、泌尿器領域、体腔液の細胞像を理解	谷岡
10	各論：脳脊髄液の細胞診 穿刺細胞診 非上皮腫瘍の細胞診	谷岡
11	各論：スクリーニングの目的と実際	谷岡
12	各論：細胞判定区分と細胞診断：日母分類、ベセスダシステム	谷岡
13	国家試験過去問題から理解を深める①	谷岡
14	国家試験過去問題から理解を深める②	谷岡
15	小テスト③ 総復習	谷岡

教科書・参考書	教科書：『最新 臨床検査学講座 病理学/病理検査学』（株）医歯薬出版 参考書：『細胞検査 技術教本』一般社団法人日本臨床衛生検査技師会
成績評価法	定期試験75点、小テスト10点、出席15点とする。59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床化学	担当教員	飯島・下垣・伊藤	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

分析技術の高度化に対応し、医療人として病態を理解し、検査診断を支援できるようになるために、患者から採取した血液、尿、その他に含まれる各種成分を生化学的方法で定量する方法を習得するとともに、客観的な計測情報が患者診療に果たす意義を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

臨床化学分析法の原理とその臨床的意義を理解することにより、チームの一員として医療に貢献することができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	総論(1)：臨床化学総論：概念、歴史、特徴、誤差	伊藤
2	総論(2)：基準値、生理的変動	飯島
3	総論(3)：臨床検査値の測定技術による変動 分析法の基礎(1)：分光光度分析、吸光度測定の種類	飯島
4	分析法の基礎(2)：分析法の種類 無機質(1)：微量元素、浸透圧、アニオンギャップ	伊藤
5	分析法の基礎(3)：イオン選択電極 無機質(2)：ナトリウム	下垣
6	無機質(3)：カリウム、クロール、重炭酸イオン	飯島
7	分析法の基礎(4)：キレート分析 無機質(4)：カルシウム、マグネシウム、無機リン	伊藤
8	無機質(5)：鉄、銅、亜鉛、微量元素 分析法の基礎(5)：酵素を用いた基質の分析(1)	伊藤
9	分析法の基礎(6)：酵素を用いた基質の分析(2)	飯島
10	糖質(1)：グルコース	下垣
11	糖質(2)：糖尿病の検査、グルコース負荷試験 分析法の基礎(7)：共存物質の影響の回避	下垣
12	糖質(3)：ヘモグロビンA1c、グリコアルブミン、1,5-AG、乳酸、ピルビン酸、グリコヘモグロビン 分析法の基礎(7)：クロマトグラフィー	飯島
13	脂質(1)：リポタンパク、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール	飯島
14	脂質(2)：トリグリセライド、内因性物質の消去	伊藤
15	脂質(3)：リン脂質、遊離脂肪酸、ケトン体、胆汁酸	伊藤

教科書・参考書	臨床化学検査学 第3版 【医歯薬出版】 ISBN_978-4-263-22396-3
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	移植免疫検査学		担当教員 藤本 純光	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 2 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

輸血・移植のための検査について基本的な用語な理解するとともに基礎知識を習得し、実習で行う検査法の原理や結果の解釈や理解につなげる。

【到達目標（SBO）】

- 1) 輸血用血液製剤の種類・効能・有効期限・保管温度について説明できる。
- 2) ABO血液型検査についてランドシュタイナーの法則を説明できる。
- 3) ABO血液型およびRhD血液型検査の説明できる。
- 4) 臨床的意義のある血液型があることを説明できる。
- 5) 直接抗グロブリン試験、間接抗グロブリン試験および交差適合試験について説明できる。
- 6) HLAについて説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス	藤本 純光
2	移植免疫検査の基礎知識、輸血の歴史	藤本 純光
3	輸血療法、輸血用血液製剤の種類と特性、自己血輸血	藤本 純光
4	血液型総論	藤本 純光
5	ABO血液型	藤本 純光
6	Rh血液型	藤本 純光
7	その他の血液型	藤本 純光
8	その他の血液型	藤本 純光
9	赤血球抗体検査	藤本 純光
10	交差適合試験	藤本 純光
11	自己溶血性貧血と自己抗体、輸血副作用	藤本 純光
12	血液型不適合妊娠と新生児溶血性疾患	藤本 純光
13	HLA検査	藤本 純光
14	血小板抗原、顆粒球抗原	藤本 純光
15	移植	藤本 純光
16	まとめ	藤本 純光

教科書・参考書	教科書：臨床検査学講座 免疫検査学/輸血・移植検査学 第2版 （医歯薬出版） 参考書：輸血・移植検査技術教本 第2版 （丸善出版）
成績評価法	出席（16点）、定期試験（84点）。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	病理検査学		担当教員	谷岡その	授業形態	☒ 講義	☐ 実習	
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	2 学年	単位数	2		

【 一般目標（G I O） 】

- 1) 病理検査室での検査過程、病理組織標本作製の順序を理解する。
- 2) 病理組織標本作製するための基本的な技術を理解する。
- 3) 病理組織の一般染色であるHE（Hematoxylin-eosin）染色の原理と染色技術を理解する。
- 4) 膠原線維、弾性線維、細網線維、多糖類の染色を理解する。
- 5) 凍結切片標本作製法を理解する。
- 6) 実習授業に連動した講義とする。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 病理組織標本作製の順序が説明できる。
- 2) 病理組織標本作製するための手順が説明できる。
- 3) HE染色の原理と染色方法が説明できる。
- 4) 膠原線維、弾性線維、細網線維、多糖類の染色の特徴を説明できる。
- 5) 凍結切片標本作製法の手順が説明できる。
- 6) 実習授業の予習復習を行うことで理解を深める。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス 病理組織標本作製の意義	谷岡
2	組織片の切り出し	谷岡
3	固定法	谷岡
4	脱脂法、脱灰法	谷岡
5	薄切法	谷岡
6	染色法：色素と染色機構、染色前後の操作、一般染色（HE染色）	谷岡
7	染色法：hematoxylin-eosin染色	谷岡
8	特殊染色：膠原線維の染色法	谷岡
9	特殊染色：弾性線維の染色法	谷岡
10	特殊染色：細網線維の染色法 小テスト①	谷岡
11	特殊染色：多糖類の染色法 PAS反応、グリコーゲンの消化試験	谷岡
12	特殊染色：多糖類の染色法 アルシアン青染色、重染色	谷岡
13	特殊染色：ムチカルミン染色、トルイジン青染色	谷岡
14	凍結切片標本作製法	谷岡
15	国家試験過去問題から復習 小テスト②	谷岡

教科書・参考書	教科書：『最新 臨床検査学講座 病理学/病理検査学』医歯薬出版株式会社
成績評価法	定期試験75点、小テスト10点、出席15点とする。59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野			
授業科目名		生理機能検査学Ⅰ		担当教員		廣上祐子・東博美		授業形態		☒ 講義 ☐ 実習	
開講時期		☒ 前期 ☐ 後期		学 年		2 学年		単位数		2	

【 一般目標（G I O） 】

循環機能検査を行うために、心電図検査・心音検査の基礎を理解し習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- ① 心臓の構造を理解する。
- ② 心臓の電気的活動を理解する。
- ③ 不整脈、虚血、心筋傷害など、命にかかわる異常を早期発見するための基礎知識を理解する。
- ④ 正しい電極装着、アーチファクトの除去、波形の理解をする。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	臨地実習前実技試験の被検者	廣上
2	臨地実習前実技試験の被検者	廣上
3	循環器系検査の基礎	廣上
4	心電図検査・心電図の実際	廣上
5	異常心電図①	廣上
6	異常心電図②	廣上
7	異常心電図③	廣上
8	運動負荷心電図検査・Holter心電図検査	廣上
9	その他	廣上
10	まとめ	廣上
11	心音図検査	東
12	心音図検査・動脈硬化検査	東
13	動脈硬化検査	東
14	血管内非機能検査	東
15	まとめ	東

教科書・参考書	教科書：生理機能検査学 第3版（医歯薬出版）、配布プリント
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 定期試験 85点、出席点 15点（1点×出席日数）から成績評価を行う。 なお、出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院勤務勤務経験があり。実務経験に基づいて授業を行う。

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	血液検査学実習		担当教員 東克巳・大谷 英夫・藤本純光	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 2 学年	単位数 2

【一般目標（GIO）】

血液検査学実習は血球計数、形態検査、凝固・線溶検査の3分野に分けられる。本実習では、1年次の座学で学習した血液学の基礎知識を実習体験することにより理解を深め、検査知識を身につけることを目標とする。

また、本実習では基本的な形態検査（赤血球形態含む）と血球計数を中心に実習し、また、止血機構に関し基本的な凝固・線溶のメカニズムを目視により確認しそれぞれの基本的手技や技術を身につけることを目標とする。

さらに、本実習では造血器腫瘍の診断に応用できる知識、白血病および悪性リンパ腫を具体的に分類ができること、出血傾向や血栓症についての診断に応用可能な知識を習得することを目指す。

【到達目標（SBO）】

①血液塗抹標本作製ができ、普通染色の方法とそれぞれの特徴が説明できる。②血液塗抹標本で正常白血球の種類を分類し説明できる。③赤血球系、白血球系の幼若細胞の種類とそれぞれの形態的特徴を説明できる。④血球計数に関し、血液希釈から赤血球数、白血球数、血小板数の計数ができその計算原理を説明できる。⑤骨髓塗抹標本で白血病や悪性リンパ腫を分類し、それぞれの特徴を説明できる。⑥血液凝固機序や線溶機序が説明でき、凝固因子や線溶因子が列挙できる。⑦血小板数の異常および機能異常を伴う主な疾患及び血液凝固障害を伴う疾患と凝固止血検査データを関連づけ説明できる。⑧赤血球浸透圧抵抗試験や沈降速度の原理と異常の病態が説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	血液塗抹標本作製、普通染色原理の解説	東・大谷・藤本
2	Wright染色単染色、Giemsa染色単染色、Wright・Giemsa二重染色	東・大谷・藤本
3	末梢血正常細胞スライド解説	東・大谷・藤本
4	末梢血正常細胞鏡検・スケッチ	東・大谷・藤本
5	末梢血正常細胞鏡検・スケッチ、末梢血スライド試験	東・大谷・藤本
6	計算板の構造と使い方、白血球数算定、特殊染色意義解説、ペルオキシダーゼ染色・スケッチ	東・大谷・藤本
7	赤血球数算定	東・大谷・藤本
8	網赤血球数算定の意義解説及びその算定（Brecher法）	東・大谷・藤本
9	ヘモグロビン測定、ヘマトクリット測定、赤血球指数	東・大谷・藤本
10	血小板数の意義解及びその算定（Brecher-Cronkite法）	東・大谷・藤本
11	骨髓系幼若細胞解説と鏡検・スケッチ	東・大谷・藤本
12	骨髓系幼若細胞鏡検・スケッチ	東・大谷・藤本
13	赤芽球系解説、赤芽球系鏡検・スケッチ	東・大谷・藤本
14	赤芽球系幼若細胞スケッチ続き	東・大谷・藤本
15	白血病解説、白血病標本鏡検・スケッチ	東・大谷・藤本

16	白血病標本鏡検・スケッチ続き、形態スライド試験	東・大谷・藤本
17	赤血球沈降速度および赤血球抵抗試験の解説	東・大谷・藤本
18	赤血球沈降速度および赤血球抵抗試験	東・大谷・藤本
19	止血機構概要解説（血管系・血小板系）	東・大谷・藤本
20	出血時間、毛細管抵抗試験	東・大谷・藤本
21	血液凝固概要解説（内因系・外因系）	東・大谷・藤本
22	フィブリノゲン測定（トロンビン時間法）SF、SFMC概要解説	東・大谷・藤本
23	全血凝固時間、カルシウム再加時間	東・大谷・藤本
24	部分トロンボプラスチン時間（PTT）、活性化PTT（APTT）測定	東・大谷・藤本
25	PT時間解説	東・大谷・藤本
26	PT検量線作製、PT結果表現方法、活性値、PT比、INR	東・大谷・藤本
27	凝固制御機構解説：生理的因子と病的因子（循環抗凝血素）解説	東・大谷・藤本
28	クロスミキシング試験	東・大谷・藤本
29	線溶機序概要の解説、ユーグロブリン溶解時間	東・大谷・藤本
30	FDP・Dダイマー測定	東・大谷・藤本

教科書・参考書	教科書：奈良信雄他著 最新臨床検査学講座 血液検査学 医歯薬出版（第3版） 参考書：血液細胞ノート 文光堂
成績評価法	成績評価は形態スライド実技試験、課題、スケッチブックの評価、定期試験とする。 （形態スライド実技試験・課題・スケッチブックの評価：30%、定期試験：70%）
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	血液検査学		担当教員	大谷 英夫	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期		学 年	2 学年	単位数 2

【一般目標（GIO）】

1 学年で学んだ「血液の基礎知識」（血液学）をベースに、並行して開講する血液検査学実習で身に付けた実技が知識としてどのように診断に活用されるのか、またどういった検査が各疾患に必要となるのか、生化学や免疫学などの知識と共に深く理解することで、血液疾患と検査について説明できるようなることを目標とする。

【到達目標（SBO）】

赤血球系疾患の病態について理解し、疾患に関連する検査と結果についても説明できる。

白血球系疾患（急性白血病）の病態について理解し、疾患に関連する検査と結果について説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス、血液学の復習	大谷
2	赤血球の基礎（まとめ）、赤血球の形態異常	大谷
3	貧血総論	大谷
4	小球性貧血 1	大谷
5	小球性貧血 2、正球性貧血 1	大谷
6	正球性貧血 2	大谷
7	正球性貧血 3	大谷
8	大球性貧血 赤血球増加症	大谷
9	赤血球系疾患のまとめ	大谷
10	白血球の基礎（復習）、白血球の形態異常	大谷
11	白血球の疾患総論	大谷
12	造血器腫瘍の分類（FAB分類とWHO分類）	大谷
13	急性白血病 1	大谷
14	急性白血病 2	大谷
15	まとめ	大谷

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「血液検査学」（医歯薬出版株式会社） 参考書：病気がみえる vol.5 血液（株式会社メディックメディア）
成績評価法	定期試験60点、小テスト40点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床病態学	担当教員	牛尾 綾	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

臨床現場で遭遇しやすい代表的な疾患について、その病態を理解するとともに、正しく診断するための検査手法、治療法や予後について学習する。

臨床検査技師として、他の医療従事者（医師・看護師・薬剤師など）と密に連携をとり、患者に最適な医療を提案できるようにするために必要とされる基本的な臨床医学の知識を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 主要な疾患の疫学，症候，病因と病態について説明することができる。
- 2) 主要な疾患の診断と治療，予後の概略について説明することができる。
- 3) それぞれの疾患を有する患者が持つ問題点と医療の関わりについて説明することができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	循環器疾患	牛尾 綾
2	呼吸器疾患	牛尾 綾
3	消化器疾患	牛尾 綾
4	肝・胆・膵疾患	牛尾 綾
5	感染症	牛尾 綾
6	血液・造血器疾患	牛尾 綾
7	内分泌疾患 1	牛尾 綾
8	内分泌疾患 2	牛尾 綾
9	腎・泌尿器疾患	牛尾 綾
10	女性生殖器疾患	牛尾 綾
11	神経・運動器疾患	牛尾 綾
12	膠原病・自己疾患・アレルギー性疾患	牛尾 綾
13	代謝・栄養障害	牛尾 綾
14	染色体・遺伝子異常症	牛尾 綾
15	眼疾患・耳鼻咽喉疾患・皮膚疾患	牛尾 綾

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座 病態学／臨床検査医学総論 第4版 奈良信雄・高木康・和田隆志 編著（医歯薬出版株式会社）
成績評価法	定期試験（90％）、出席及び授業態度（10％）
備考・実務経験等	大学病院病理部にて病理診断に従事

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床検査マネジメント	担当教員	藤本 純光 他	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☐ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査技師が病院、検査センターなどの各施設でどのように業務を行っているのかを現場で働いている方々が実務経験に基づき講義を行う。

各施設における検査部門の役割や機能、検査技師として大切にしている業務について学ぶ。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 各施設・部署における臨床検査技師の業務内容を説明できる。
- 2) 各施設・部署における臨床検査技師の役割について説明できる。
- 3) 各施設・部署における業務において大切にしている事を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	臨床検査業務について	藤本 純光
3・4	臨床検査センターにおける血液学検査と検査技師の役割について	大貫 貴雄
5・6	臨床検査業務について	佐藤 佑樹
7	臨床検査業務について	恩田 和人
8	臨床検査業務について	久保川 一江
9	治験コーディネーター業務について	藤本 純光
10	臨床検査業務について	西山 大揮
11	臨床検査業務について	遠水 友紀
12	細菌検査センターの業務について	藤本 純光
13	臨床検査業務について	三崎 千恵美
14・15	臨床検査業務について	山下 省一

教科書・参考書	配布資料
成績評価法	出席（30点）、レポート（70点）。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	病理検査学実習		担当教員 松木由法・山口 みはる・谷岡その	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

- 1) 病理組織学的検査法の特徴を理解し、基本的な標本作製が行える。
- 2) 各染色法の原理や試薬の特徴、取扱い方などが説明できる。
- 3) 出来上がった標本を顕微鏡で観察し、各組織の基本的構造が説明できる。
- 4) 免疫組織化学染色の目的や原理が説明でき、標本作製が行える。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 組織標本のホルマリン固定臓器からプレパラート標本が作製できる。
- 2) HE染色及び特殊染色の試薬作製において、種類や目的、調整方法を理解し説明できる。
- 3) 特殊染色は各臓器の特徴的に染まる部位や沈着物、病原体、病変など疾患との関連性が説明できる。
- 4) 免疫組織化学染色では各抗体における陽性部位の判定方法や局在の違いを説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	切出し、脱脂・脱灰・中和液の調整および処理、包埋準備（自動包埋置）	松木・山口・谷岡
3・4	パラフィン包埋（包埋センター使用）、ブロック作製、薄切①	松木・山口・谷岡
5・6	薄切②、ヘマトキシリン（マイヤー、カラッチ）染色液の作製	松木・山口・谷岡
7・8	エオジン液作製、HE染色、ビクトリア青 + HE重染色、HE標本のスケッチ	松木・山口・谷岡
9・10	HE標本、ビクトリア青+HE重染色のスケッチ、鉄ヘマトキシリン液作製	松木・山口・谷岡
11・12	エラスチカワンギーソン染色、アザン染色、スケッチ	松木・山口・谷岡
13・14	マッソントリクローム染色、スケッチ	松木・山口・谷岡
15・16	アルシアン青 + PAS重染色、アミラーゼ消化PAS、トルイジン青染色、スケッチ	松木・山口・谷岡
17・18	鍍銀染色、PAM染色	松木・山口・谷岡
19・20	スケッチ（アルシアン青+PAS、アミラーゼ消化PAS、トルイジン青、鍍銀、PAM染色）	松木・山口・谷岡
21・22	ダイレクトファーストスカール（DFS）染色、グロコット（Grocott）染色、スケッチ	松木・山口・谷岡
23・24	クリューバー・バレラ（KB）染色、免疫組織化学（IHC）染色、スケッチ	松木・山口・谷岡
25・26	スケッチ（DFS、グロコット、KB、IHC）	松木・山口・谷岡
27・28	メーカー見学（凍結切片作製）	松木・山口・谷岡
29・30	実技試験（鏡検問題、スライド問題）	松木・山口・谷岡

教科書・参考書	教科書：「病理学/病理検査学」医歯薬出版 参考書：「染色法のすべて」医歯薬出版、「人体組織図譜」南江堂
成績評価法	100点満点でレポート・スケッチ30点、実技試験30点、定期試験30点、授業への取り組み10点で成績評価を行う。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	医療安全管理学実習		担当教員 大塚喜人・高平雅和・金井順侯・佐藤佑樹・廣上祐子	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年 2 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

臨床検査技師としての医療現場における医療安全と感染管理および検体採取について実習する。

【到達目標（SBO）】

- 1) インシデントレポートが的確に作成できるようになる。
- 2) インシデントレポートを的確に分析し、対策・評価を行えるようになる。
- 3) 感染管理を理解し、適切に感染予防が行えるようになる。
- 4) 安全な検体採取・採血が行えるようになる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	抗原・抗体、定性・定量検査、核酸検出検査の理解とウィルス感染症における鼻咽頭ぬぐい液の検体採取。	大塚
3・4	インシデントレポートの書き方、分析方法、対策、評価の理解	高平
5・6	インシデントの分析（グループワーク）	高平・金井
7・8	インシデントの分析（グループワーク）	高平・金井
9・10	インシデントの対策・評価	高平・金井
11・12	採血実習	廣上・金井
13・14	採血実習	廣上・金井
15・16	個人防護具着脱演習、手指衛生実習、感染患者対応	佐藤

教科書・参考書	医療安全管理学（医歯薬出版株式会社）
成績評価法	定期試験60点、実習40点、とする。59点以下は不可とする。 なお出席が2/3以下の場合は評価対象外定期試験
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務（各医療安全、感染管理、採血室）

2026年度

シラバス
2年生

【前期】

【後期】

- ① 臨床免疫学
- ② RCPC
- ③ 臨床微生物学
- ④ 移植免疫検査学実習
- ⑤ 画像検査学実習
- ⑥ 健康食品管理総論
- ⑦ 病理検査学
- ⑧ 生理機能検査学Ⅱ
- ⑨ 臨床微生物学実習
- ⑩ 臨床化学・免疫実習（免疫）
- ⑪ 生理機能検査学Ⅱ
- ⑫ 血液検査学
- ⑬ 臨床化学・免疫実習（臨床化学）
- ⑭ 生理機能検査学実習
- ⑮ 生理機能検査学Ⅰ
- ⑯ 臨床化学

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	臨床免疫学		担当教員	堀井 隆	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	2 学年	単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

免疫学の基礎を踏まえ、免疫学的機序を基に行われている各種検査法の原理を理解し、臨床現場で実践できるための知識を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 試験管内抗原抗体反応の基礎について理解し、説明できる。
- 2) 試験管内抗原抗体反応の応用について理解し、説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	抗原及び抗原抗体反応・血清分離・抗体の精製	堀井
2	沈降反応	堀井
3	凝集反応	堀井
4	溶解反応	堀井
5	中和反応	堀井
6	非標識免疫測定法	堀井
7	標識免疫測定法	堀井
8	電気泳動法	堀井
9	感染症の免疫学的検査	堀井
10	感染症の免疫学的検査	堀井
11	アレルギー検査	堀井
12	自己免疫疾患関連検査	堀井
13	免疫不全症関連検査	堀井
14	腫瘍マーカー検査	堀井
15	血清蛋白異常症関連検査	堀井

教科書・参考書	教科書：臨床検査学講座 免疫検査学/輸血・移植検査学 （医歯薬出版）
成績評価法	定期試験90点、小テスト10点。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので、注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	RCPC	担当教員	高平雅和・森山晴恵・金井順侯	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査技師として複数の検査データから患者の病態を読み解くことを学習する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) RCPC基礎13項目について理解し、知識を身に着ける
- 2) 実際にRCPCに体験し、その知識を身に着け、今後の医療現場に役立つデータを読み解く力を身に着ける

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	RCPCとは（RCPC序論）	高平
2	栄養状態と全身状態	森山
3	感染症と重症度	森山
4	臓器別の病態	森山
5	細胞障害	森山
6	貧血、凝固・線溶の異常	森山
7	電解質異常と血液ガス	森山
8	RCPC実践GW	金井
9	RCPC実践GW	高平
10	RCPC実践GW	金井
11	RCPC実践GW	高平
12	RCPC実践GW	金井
13	RCPC実践GW	高平
14	RCPC実践GW	金井
15	RCPC実践GW	高平

教科書・参考書	検査値を読むトレーニング（医学書院）
成績評価法	定期試験70点、GW30点、とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合 は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床微生物学	担当教員	大塚正之	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

感染症領域で問題となる微生物について、その形態・染色性・培養法・生化学的性状などの各種検査法の原理と手技を体系的に理解する。また、近年世界的に深刻化している薬剤耐性菌（AMR）についても学び、感染症の的確な診断および治療に直結する検査法の知識を総合的に身につけることを目標とする。

【 到達目標（S B O） 】

- 1）感染症の起炎菌となり得る各種細菌について、形態、染色性、培養法、生化学的性状を説明できる。
- 2）細菌検査に用いる各種培地の特徴を理解し選択することができる。
- 3）各種検査材料において、どの様な微生物が起炎菌となり得るのか説明できる。
- 4）一般細菌、嫌気性菌、抗酸菌、真菌、ウイルスの特徴を理解し説明することができる。
- 5）各種耐性菌の検出方法が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	前期総復い①	大 塚
2	前期総復い②	大 塚
3	スピロヘータ科/レプトスピラ科/マイコプラズマ科	大 塚
4	リケッチア/クラミジア科	大 塚
5	真 菌（酵母/糸状菌/ニューモシスチス）（ポストテスト③）	大 塚
6	ウイルス（DNAウイルス/RNAウイルス）、プリオン	大 塚
7	医療関連感染 / 感染症関連法規（ポストテスト④）	大 塚
8	感染経路と感染予防対策	大 塚
9	滅菌、消毒	大 塚
10	化学療法①（薬剤感受性検査/抗菌薬）	大 塚
11	化学療法②（ワクチン）	大 塚
12	耐性菌（MRSA、VRSA、PRSP、MDRP、ESBL、CRE etc.）	大 塚
13	各種耐性菌検出方法	大 塚
14	後期総括（ポストテスト⑤）	大 塚
15	総括	大 塚

教科書・参考書	最新臨床検査学講座「臨床微生物学」医歯薬出版（教科書）
成績評価法	ポストテスト30%および定期試験70%の割合で総合的に評価する。 80点以上を優、70点以上80点未満を良、60点以上70点未満を可で表し、60点未満は不可とする。
備考・実務経験等	実務経験：病院・検査センターでの勤務経験有り

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	移植免疫検査学実習		担当教員	藤本純光・谷岡その
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年	2 学年
			単位数	2

【一般目標（GIO）】

血液型検査の基本的な手技および判定を習得する。不規則抗体検査および交差適合試験における生理食塩液法、間接抗グロブリン試験の検査手技を習得し、臨床的意義を理解する。試験管法とカラム凝集法の特徴や結果解釈の理解につなげる。

【到達目標（SBO）】

- 1) 輸血検査の試薬分注手順および必要な赤血球浮遊液の調整を実践できる。
- 2) 試験管法およびカラム凝集法における赤血球凝集反応の反応強度を分類することができる。
- 3) 非特異的反応による凝集反応を判別できる。
- 4) 不規則抗体を同定できる。
- 5) 直接抗グロブリン試験、間接抗グロブリン試験の手技を実践し判定できる。
- 6) 交差適合試験を実施し、結果を判定できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2・3・4	生理食塩水の作製、赤血球浮遊液の調整 赤血球洗浄の観察、凝集反応の判別	藤本・谷岡
5・6・7・8	ABO血液型判定（各血液型反応態度の理解） RhD血液型判定、D陰性確認試験	藤本・谷岡
9・10・11・12	レクチンによる検査、吸着解離試験使用した亜型の検査	藤本・谷岡
13・14・15・16	不規則抗体の検査Ⅰ（抗体スクリーニング）、不規則抗体同定机上問題 直接抗グロブリン試験	藤本・谷岡
17・18・19・20	不規則抗体の検査Ⅱ（不規則抗体同定）酵素法の解釈	藤本・谷岡
21・22・23・24	交差適合試験（生食法、間接抗グロブリン法）	藤本・谷岡
25・26・27・28	実技試験（基本事項の確認、実技関連ペーパーテスト含む）	藤本・谷岡
29・30	まとめ（移植免疫検査の実際と情報提供）	藤本・谷岡

教科書・参考書	教科書：臨床検査学講座 免疫検査学/輸血・移植検査学 第2版 （医歯薬出版） 参考書：輸血・移植検査技術教本 第2版 （丸善出版）
成績評価法	出席（15点）、実技試験（65点）、定期試験（20点）。59点以下は不可とする。なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関等での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	画像検査学実習	担当教員	小島聡・東博美・三崎千恵美	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

画像診断は人体の構造や臨床生理学の知識や技術が大変重要となる。
超音波検査の基礎と原理、人体の構造、描出した画像を理解する。

【到達目標（SBO）】

- 1. 超音波検査の基礎と原理を理解する。
- 2. 人体の構造を理解する。
- 3. 超音波検査の操作方法や描出された超音波検査画像を理解する。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	甲状腺超音波検査	東・三崎
3・4	腹部超音波検査	東・三崎
5・6	腹部超音波検査	東・三崎
7・8	腹部超音波検査	東・三崎
9・10	心臓超音波検査	小島・東
11・12	頸動脈超音波検査	東・三崎
13・14	心臓超音波検査	小島・東
15・16	心臓超音波検査	小島・東

教科書・参考書	教科書：生理機能検査学 これから始める心エコー 配布物資料
成績評価法	実習全体を100点満点として採点する。 定期試験 50点 レポート 40点 出席点 10点（1点×出席回）から成績評価を行う。 なお、出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院勤務勤務経験があり。実務経験に基づいて授業を行う。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☐ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	健康食品管理総論	担当教員	高橋 千華	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

栄養と身体 の関係 を理解する。
健康維持のための食べ方 を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1） 1 年次に学んだ栄養学の知識が身についているか、思い出してみる。
- 2） 疾患と栄養の関係について、説明できるようになる。
- 3） 健康維持のために、自身で食品を選択できるようになる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	栄養を知ると良いこと	高橋
2	老化が起こるのはなぜか	高橋
3	食べて整えたい免疫力	高橋
4	本当にダイエットは必要か	高橋
5	体内時計を活かした食べ方	高橋
6	疾患と栄養①	高橋
7	疾患と栄養②	高橋
8	1～7回目の復習・定期試験対策	高橋

教科書・参考書	教科書は使用なし。毎回プリントを配布します。
成績評価法	定期試験100点 59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	病理検査学		担当教員	谷岡その	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	2 学年	単位数 2

【一般目標（GIO）】

- 1) 特殊染色の染色法を理解する。
- 2) 凍結切片標本作製法を理解する。
- 3) 免疫組織化学染色を理解する。
- 4) 電子顕微鏡標本作製法を理解する。
- 5) 病理解剖について理解する。
- 6) 遺伝子の染色法、遺伝子解析について理解する。

【到達目標（SBO）】

- 1) 特殊染色の特徴と染色方法が説明できる。
- 2) 凍結切片標本作製法を説明できる。
- 3) 免疫組織化学染色の特徴と染色方法が説明できる。
- 4) 電子顕微鏡標本作製法が説明できる。
- 5) 病理解剖の手続き、臨床検査技師が行う介助について説明できる。
- 6) 遺伝子の染色法、遺伝子解析について説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	特殊染色：脂質の染色法	谷岡
2	特殊染色：アミロイドの染色法	谷岡
3	特殊染色：線維素の染色法、組織中の無機物質の染色法	谷岡
4	特殊染色：生体内色素の染色法 小テスト①	谷岡
5	特殊染色：組織内病原体の染色法①	谷岡
6	特殊染色：組織内病原体の染色法②	谷岡
7	特殊染色：神経組織の染色法	谷岡
8	電子顕微鏡標本作製法：透過型電子顕微鏡、走査型電子顕微鏡	谷岡
9	まとめ：問題から理解を深める 小テスト②	谷岡
10	免疫組織化学染色：酵素抗体法	谷岡
11	免疫組織化学染色：蛍光抗体法	谷岡
12	遺伝子の染色法：ISH法、FISH法	谷岡
13	病理解剖	谷岡
14	病理学的検査業務の管理	谷岡
15	遺伝子解析：コンパニオン診断	谷岡

教科書・参考書	教科書：『最新 臨床検査学講座 病理学/病理検査学』医歯薬出版株式会社
成績評価法	定期試験75点、小テスト10点、出席15点とする。59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生理機能検査学Ⅱ	担当教員	河西 美代子	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

神経・筋機能検査（脳波検査、誘発電位検査、筋電図検査）の測定原理や検査結果について理解し、異常所見と疾患との関連を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 脳波の発現機序、基礎的要素、検査法、正常脳波、睡眠脳波、異常脳波、脳波賦活法、脳波検査におけるアーチファクトとその対処法について説明できる。
- 2) 誘発電位の臨床的意義と各検査法、検査所見について説明できる。
- 3) 針筋電図検査の臨床的意義と検査法、検査所見について説明できる。
- 4) 神経伝導検査、反復神経刺激検査の臨床的意義と検査法、検査所見について説明できる。
- 5) 運動誘発電位検査の臨床的意義と検査法、検査所見について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス 神経系検査の基礎：神経、末梢神経	河西
2	神経系検査の基礎：中枢神経	河西
3	脳波検査：脳波発現の機序、基礎的要素	河西
4	脳波検査：電極の配置、導出法	河西
5	脳波検査：正常脳波、年齢による脳波の変化、睡眠脳波	河西
6	脳波検査：異常脳波	河西
7	脳波検査：脳波賦活法、アーチファクト	河西
8	誘発電位とその他の検査	河西
9	筋電図検査：解剖・生理学的基礎知識	河西
10	筋電図検査：針筋電図検査	河西
11	筋電図検査：神経伝導検査①	河西
12	筋電図検査：神経伝導検査②	河西
13	筋電図検査：反復神経刺激検査	河西
14	筋電図検査：運動誘発電位	河西
15	筋電図検査：まとめ	河西

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「生理機能検査学 第2版」医歯薬出版、適宜プリント配布
成績評価法	定期試験75点、小テスト10点、出席15点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床微生物学実習	担当教員	大塚正之・藤本純光	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

講義で習得した微生物学的知識を確実なものとする。
コロニー性状から微生物の特徴を捉え、その同定と検査法を理解する。
微生物に関連する疾病について理解を深めることにより、医療全体における微生物検査の役割を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 実際に臨床で分離される微生物を用いて、微生物の取り扱いを習得する。
- 2) 微生物の性状を比較・分類すること、それぞれの微生物の特徴を説明できる。
- 3) 試験に用いる培地や検査キットの特徴を理解し、菌種同定および薬剤感受性試験について説明できる。
- 4) 微生物と感染症との関連性を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	ガイダンス	大塚・藤本
2	培地作製（普通寒天培地とHIブロス）と分離培養の手技	大塚・藤本
3	コロニー観察とグラム染色	大塚・藤本
4	衛生的手洗いの実際	大塚・藤本
5	培地作製（血液寒天培地とチョコレート寒天培地）	大塚・藤本
6	炭酸ガス培養法	大塚・藤本
7	コロニー観察とグラム染色	大塚・藤本
8	培養ガス環境の違いによる菌株の増殖	大塚・藤本
9	Staphylococcus 属の同定と検査法（培地作製）	大塚・藤本
10	Staphylococcus 属の同定と検査法（菌液の接種）	大塚・藤本
11	Staphylococcus 属の同定と検査法（コロニー観察とグラム染色）	大塚・藤本
12	Staphylococcus 属の同定と検査法（カタラーゼとコアグラゼ）	大塚・藤本
13	Streptococcus属およびEnterococcus属の同定と検査法（培地作製）	大塚・藤本
14	Streptococcus属およびEnterococcus属の同定と検査法（菌液の接種）	大塚・藤本
15	Streptococcus属およびEnterococcus属の同定と検査法（コロニー観察とグラム染色）	大塚・藤本

16	Streptococcus属およびEnterococcus属の同定と検査法 (カタラーゼ、ランスフィールド、胆汁溶解試験)	大塚・藤本
17	腸内細菌科の同定と検査法 (培地作製)	大塚・藤本
18	腸内細菌科の同定と検査法 (菌株の接種)	大塚・藤本
19	腸内細菌科の同定と検査法 (コロニー観察とグラム染色)	大塚・藤本
20	腸内細菌科の同定と検査法 (オキシダーゼと生化学性状試験判定)	大塚・藤本
21	ブドウ糖非発酵菌の同定と検査法 (培地作製)	大塚・藤本
22	ブドウ糖非発酵菌の同定と検査法 (菌株の接種) NF-18	大塚・藤本
23	ブドウ糖非発酵菌の同定と検査法 (コロニー観察とグラム染色)	大塚・藤本
24	ブドウ糖非発酵菌の同定と検査法 (オキシダーゼと生化学性状試験判定)	大塚・藤本
25	薬剤感受性試験と β ラクタマーゼ検出法 (培地作製)	大塚・藤本
26	薬剤感受性試験と β ラクタマーゼ検出法 (菌液の調整と接種)	大塚・藤本
27	薬剤感受性試験と β ラクタマーゼ検出法 (ディスクの判定)	大塚・藤本
28	薬剤感受性試験と β ラクタマーゼ検出法 (薬剤耐性菌の結果判定)	大塚・藤本
29	抗酸菌の同定と検査法 (チールネルゼン染色)	大塚・藤本
30	真菌の同定と検査 (グラム染色とラクトフェノールコットンブルー染色)	大塚・藤本

教科書・参考書	最新臨床検査学講座「臨床微生物学」医歯薬出版 (教科書)
成績評価法	レポート60点、定期試験20点、出席20点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・検査センターでの勤務経験有り

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床化学・免疫実習（免疫）	担当教員	堀井隆・藤本純光	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査の現場で沈降反応、凝集反応、標識免疫測定法、免疫電気泳動法などの方法により測定されている感染症、自己免疫、腫瘍マーカー、ホルモン検査などの臨床的意義を理解し、その手技を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

免疫学的測定法（沈降反応、凝集反応、標識免疫測定法など）が臨床検査にどのように応用されているかを学び、各測定法の原理と操作法を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	間接凝集反応	堀井・藤本
3・4	イムノクロマトグラフィ	堀井・藤本
5・6	免疫比濁法	堀井・藤本
7・8	二重免疫拡散法（Ouchterlony法）	堀井・藤本
9・10	免疫固定電気泳動法（IFE）	堀井・藤本

教科書・参考書	教科書：臨床検査学講座、免疫検査学／輸血・移植検査学（医歯薬出版）
成績評価法	レポート50点、出席50点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	生理機能検査学Ⅱ			担当教員	東 博美		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	2 学年		単位数	2	

【 一般目標（G I O） 】

画像検査における病態を理解する。

- ① 病態を立体的に理解する。
- ② 疾患ごとの特徴を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

病気をより深く理解し、正確な検査、画像が理解できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	体表領域 甲状腺・副甲状腺	東 博美
2	体表領域 乳腺	東 博美
3	体表領域 運動器、その他	東 博美
4	小テスト 血管超音波検査	東 博美
5	腹部超音波検査 異常超音波像 ①	東 博美
6	腹部超音波検査 異常超音波像 ②	東 博美
7	腹部超音波検査 異常超音波像 ③	東 博美
8	小テスト 骨盤腔	東 博美
9	心臓超音波検査 心疾患における超音波像 ①	東 博美
10	心臓超音波検査 心疾患における超音波像 ②	東 博美
11	心臓超音波検査 心疾患における超音波像 ③	東 博美
12	小テスト 磁気共鳴画像検査（MRI） ①	東 博美
13	磁気共鳴画像検査（MRI） ②	東 博美
14	磁気共鳴画像検査（MRI） ③	東 博美
15	まとめ	東 博美

教科書・参考書	教科書：生理機能検査学 第3版 （医歯薬出版） これから始める 心エコー
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 定期試験 85点、出席点 15点（1点×出席日数）から成績評価を行う。 なお、出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院勤務勤務経験があり。実務経験に基づいて授業を行う。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	血液検査学			担当教員	大谷 英夫		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期			学 年	2 学年		単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

前期からの引き続きとなる本講義は、前期同様1学年で学んだ「血液の基礎知識」（血液学）をベースに、並行して開講する血液検査学実習で身に付けた実技が知識としてどのように診断に活用されるのか、またどういった検査が各疾患に必要となるのか、生化学や免疫学などの知識と共に深く理解することで、血液疾患と検査について説明できるようなることを目標とする。

【 到達目標（S B O） 】

白血球系疾患（造血器腫瘍）の病態について理解し、関連検査と結果について説明できる。
血小板異常による出血性素因に関連する疾患について理解し、検査と結果について説明できる。
凝固・線溶異常に伴う疾患について理解し、関連検査と結果について説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	前期の総括	大谷
2	骨髄増殖性腫瘍および類縁疾患	大谷
3	骨髄異形成症候群、慢性リンパ性白血病	大谷
4	多発性骨髄腫および類縁疾患	大谷
5	悪性リンパ腫、成人T細胞白血病/リンパ腫	大谷
6	白血球系疾患のまとめ	大谷
7	血小板の基礎（復習） 血小板関連疾患総論	大谷
8	凝固制御と制御機構、線溶の機序と制御機構	大谷
9	血小板減少症	大谷
10	先天性血小板機能異常症1	大谷
11	先天性血小板機能異常症2	大谷
12	凝固障害（出血傾向）	大谷
13	凝固障害（血栓傾向）	大谷
14	播種性血管内凝固	大谷
15	血液検査学のまとめ	大谷

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「血液検査学」（医歯薬出版株式会社） 参考書：病気がみえる vol.5 血液（株式会社メディックメディア）
成績評価法	定期試験60点、小テスト40点とする。59点以下は不可とする。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☒ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床化学・免疫実習（化学）	担当教員	飯島史朗・下垣里河・伊藤悦子	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

臨床化学の講義で学んだ、検査項目の分析法・臨床的意義について理解を深める。さらに、臨床化学検査学領域で汎用される分析機器の使用法を習得する。

【 到達目標（S B O） 】

臨床化学検査学領域の分析法と臨床的意義が説明でき、基本的な分析が実施できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	分析法の原理と吸収スペクトル	飯島・下垣
2	分析法の原理と吸収スペクトル	飯島・下垣
3	反応初速度法	飯島・伊藤
4	還元性物質の除去	飯島・伊藤
5	2ポイント法、2波長法	下垣・伊藤
6	血条件および保存条件(1)	下垣・伊藤
7	血条件および保存条件(2)	下垣・伊藤
8	血条件および保存条件(3)	下垣・伊藤
9	同時再現性	飯島・伊藤
10	実技試験	飯島・伊藤

教科書・参考書	臨床化学検査学 第3版 【医歯薬出版】 ISBN_978-4-263-22396-3
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	生理機能検査学実習		担当教員 青田弘・東博美・三崎千恵美	授業形態 ☐ 講義 ☒ 実習
開講時期	☐ 前期	☒ 後期	学 年 2 学年	単位数 2

【一般目標（GIO）】

- ① 検査機器の操作技術を習得する。
- ② 検査の実施手順と患者への説明力を身に着ける。
- ③ データの読み取りと評価能力を養う。
- ④ 自分自身の呼吸機能検査・脳波検査・などを測定、体験し理解する。
- ⑤ 検査技師が静脈路確保や持続皮下グルコース検査を担い医療安全を保ちながら、検査の迅速化や患者対応のスムーズ化を行う。

【到達目標（SBO）】

- ①肺活量、努力性肺活量。1秒量などの指標が何を意味するのかを理解できる。
- ②正常値と異常値の違いを理解できる。
- ③スパイロメーターの準備や、キャリブレーション、測定手順を正確に行う。
- ④測定時の声掛けや、患者さんの協力を引き出すためのコミュニケーション技術の習得。
- ⑤得られた波形や数値から、閉塞性障害・拘束性障害などのパターンを判断する。
- ⑥静脈路確保は自分でルートを確保できる。
- ⑦持続皮下グルコース検査は装着からデータ取得までの一連の流れを理解する。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	タスクシフトシェア（静脈路確保・持続皮下グルコース検査）	東・三崎
3・4	呼吸機能検査	東・三崎
5・6	呼吸機能検査	東・三崎
7・8	聴力検査	東・三崎
9・10	聴力検査	東・三崎
11・12	眼底検査・ABI検査	東・三崎
13・14	眼底検査・ABI検査	東・三崎
15・16	脳波検査	青田・東
17・18	脳波検査	青田・東
19・20	神経伝導検査	青田・東
21・22	神経伝導検査	青田・東

教科書・参考書	教科書：生理機能検査学 配布物資料
成績評価法	実習全体を100点満点として採点する。 定期試験 50点 レポート 40点 出席点 10点から成績評価を行う。 なお、出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院勤務勤務経験があり。実務経験に基づいて授業を行う。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野			
授業科目名		生理機能検査学Ⅰ		担当教員		東 博美		授業形態		☒ 講義 ☐ 実習	
開講時期		☐ 前期 ☒ 後期		学 年		2 学年		単位数		2	

【一般目標（GIO）】

呼吸機能検査および感覚機能検査について、人体の構造と機能を基礎として、各検査の原理・方法および使用機器の特性を理解する。さらに、検査値の評価や正常値の考え方を修得し、精度管理および安全管理を含めた臨床生理検査の基礎的知識を身につける。

【到達目標（SBO）】

- 1) 呼吸機能検査に用いられる記号および専門用語を理解する。
- 2) 肺気量分画を求める検査の原理および測定方法を説明できる。
- 3) 肺気量分画以外の主な呼吸機能検査について、原理および測定方法を説明できる。
- 4) 呼吸機能検査の測定結果を理解し、基本的な判定および病態との関連を説明できる。
- 5) 眼・耳・鼻などの感覚器について構造と機能を理解し、主な機能検査の原理と意義を説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	呼吸器の構造と機能	東
2	呼吸機能検査の基礎（目的・記号・専門用語）	東
3	肺気量分画とスパイロメトリー	東
4	努力肺活量およびフローボリューム曲線	東
5	換気機能障害（閉塞性・拘束性換気障害）	東
6	残気量測定（ガス希釈法・体プレチスモグラフ法）	東
7	肺拡散能検査	東
8	血液ガス分析①（測定項目、測定原理）	東
9	血液ガス分析②（酸塩基平衡、データの解釈）	東
10	呼吸機能検査の評価と代表的な呼吸器疾患	東
11	感覚器の構造と機能	東
12	視覚機能検査（眼底検査など）	東
13	聴覚器の構造と機能	東
14	聴力検査	東
15	平衡機能検査、味覚・嗅覚検査	東

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「生理機能検査学 第3版」医歯薬出版
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 定期試験 85点、出席点 15点（1点×出席日数）から成績評価を行う。 なお、出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院勤務勤務経験があり。実務経験に基づいて授業を行う。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床化学	担当教員	飯島史朗・下垣里河・伊藤悦子	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期	学 年	2 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

分析技術の高度化に対応し、医療人として病態を理解し、検査診断を支援できるようになるために、患者から採取した血液、尿、その他に含まれる各種成分を生化学的方法で定量する方法を習得するとともに、客観的な計測情報が患者診療に果たす意義を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

臨床化学分析法の原理とその臨床的意義を理解することにより、チームの一員として医療に貢献することができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	タンパク質(1)：総タンパク、アルブミン	下垣
2	タンパク質(2)：電気泳動法、血清タンパク分画、他の血漿タンパク	下垣
3	タンパク質(3)；血漿タンパク、栄養評価	下垣
4	非蛋白性窒素成分(1)：総ビリルビン、直接・間接ビリルビン	伊藤
5	非蛋白性窒素成分(2)：アンモニア、尿素窒素	伊藤
6	非蛋白性窒素成分(3)：クレアチニン、クレアチン、尿酸	伊藤
7	酵素的分析法と酵素化生測定法の原理、共通検出法、国際単位	下垣
8	酵素分析法の基礎：内因性物質の消去 酵素(1)：AST、ALT、LD	下垣
9	酵素(2)：CK、ALP、 γ -GT、ChE	下垣
10	酵素(3)：AMY、リパーゼ、AcP、その他の臨床酵素	伊藤
11	骨代謝マーカー、ビタミン	伊藤
12	薬物血中濃度測定	伊藤
13	炎症マーカー、疾患マーカー、機能検査	伊藤
14	ホルモン(1)	飯島
15	ホルモン(2)	飯島

教科書・参考書	臨床化学検査学 第3版 【医歯薬出版】 ISBN_978-4-263-22396-3
成績評価法	定期試験
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務

2026年度 臨床検査技師科Ⅰ部 前期時間割
第3学年

時限	1	2	3	4
時間	9:00 ～ 10:30	10:40 ～ 12:10	12:50 ～ 14:20	14:30 ～ 16:00
月	臨地前学内実習（4月）・模擬試験（4月・8月）			
	病態学演習 東・三崎			
火	模擬試験（4月）・臨地前学内実習（4月）・臨地挨拶回り（4月） 精度管理学・キャリアデザインⅢ・タスクシフト・病理組織・細胞診検査学特論			
	公衆衛生学 宮嶋	病理組織・細胞診検査学特論 谷岡	臨床免疫学特論 黒田 雅顕	
水	臨地前学内実習（4月）・臨地実習挨拶回り（4月） 病態学演習・移植免疫検査学特論			
	臨床化学特論 伊藤 昭三		臨床生理学特論 河西 美代子	
木	臨地前学内実習（4月）・臨地挨拶回り（4月） 病態学演習・キャリアデザインⅢ・タスクシフト			
	臨床微生物学特論 米谷 正太			キャリアデザインⅢ
金	臨地前学内実習（4月）・臨地挨拶回り（4月） 病理組織・細胞診検査学特論・キャリアデザインⅢ			
	臨床血液学特論 東 克巳			
土				

臨地前学内実習：4月 臨地実習：5月～7月

2026年度 臨床検査技師科Ⅰ部 後期時間割
第3学年

時限	1		2		3		4	
時間	9:00 ～ 10:30		10:40 ～ 12:10		12:50 ～ 14:20		14:30 ～ 16:00	
月	臨床検査学特論・模擬試験							
	病態学演習 東・三崎							
火	公衆衛生学 宮嶋		病理組織・細胞診検査学特論 谷岡		臨床免疫学特論 黒田 雅顕			
水	臨床化学特論 伊藤 昭三				臨床生理学特論 河西 美代子			
木	臨床微生物学 特論 米谷	一般検査学 特論 藤本	臨床微生物学 特論 米谷	医用工学特論 須貝	病理組織・ 細胞診検査学 特論 谷岡	精度管理学 荒木	医用工学特論 須貝	精度管理学 荒木
金	臨床血液学特論 東 克巳				一般検査学特論 藤本		移植免疫検査学特論 藤本	
土								

2026年度

シラバス

3年生

【 前 期・後 期 】

- ① キャリアデザインⅢ
- ② 臨床検査学特論
- ③ 臨地前学内実習
- ④ 臨地実習
- ⑤ 病理組織・細胞診検査学特論
- ⑥ 精度管理学
- ⑦ 移植免疫学特論
- ⑧ 一般検査学特論
- ⑨ 病態学演習
- ⑩ 公衆衛生学特論
- ⑪ 臨床免疫学特論
- ⑫ 臨床化学特論
- ⑬ 臨床生理学特論
- ⑭ 臨床微生物学特論
- ⑮ 臨床血液学特論
- ⑯ 検査管理学総論
- ⑰ 医用工学特論

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☒ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	キャリアデザインⅢ		担当教員	藤本 純光 他	授業形態 ☐ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期		学 年	3 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

学生生活から社会への接続を促し、社会の構造を知り、社会人としての心構えを学ぶ。
履歴書の作成、小論文の練習、面接練習を通してビジネスマナーや社会人として必要なコミュニケーションを習得する。

【到達目標（SBO）】

社会人として必要な資質能力を形成していくことができるよう、教育課程内外にわたり、情報提供などを段階的に応じて行う。学生が自ら向上するよう教育活動全体を通じて支援し、社会進出がスムーズにできる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	オリエンテーション	藤本
2	日本臨床検査技師会、東京都臨床検査技師会、学生会員について	藤本
3	履歴書作成・面談	藤本
4・5	健康診断	藤本
6	臨地実習ガイダンス	東、藤本
7・8	臨地実習先挨拶回り	藤本、谷岡、東、三崎
9・10・11	東京都臨床検査技師会：学生対象講演「就職ガイダンスについて」	藤本
12	臨地実習ガイダンス	東、藤本
13	小論文練習、面接練習	藤本
14・15・16・17	就職活動	藤本
18・19	臨地実習について 3年生から2年生へ報告	東、藤本
20・21	小論文練習、面接練習	藤本
22・23	国家試験受験申込手続き	藤本

教科書・参考書	なし
成績評価法	全体を100点とし、提出物60点、出席40点とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	臨床検査学特論			担当教員	藤本 純光・他		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期		学 年	3 学年		単位数	1	

【 一般目標（G I O） 】

臨床検査領域における知識を確実なものにする。検査技師の活躍の場が多様になり、診断・病期分類の判断のもととなる検査項目や具体的な検査値が問われるなど、より臨床に即した知識・判断がもとめられ、知識を統合して考える力を身につける。国家試験出題基準に応じた模擬試験を実施し、国家試験合格点に到達するよう学習する。

【 到達目標（S B O） 】

- ・ 模擬試験問題の正誤解答から理解を深める。
- ・ 出題率が高い分野の問題を認識し理解する。
- ・ 繰り返し出題される重要なキーワードは暗記する。
- ・ 成績結果から得意分野や苦手問題を分析し効率の良い学習を行う。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1 ～ 3	第8回模擬試験	藤本、谷岡、東、三崎
4 ～ 6	第9回模擬試験	藤本、谷岡、東、三崎
7 ～9	第10回模擬試験	藤本、谷岡、東、三崎
10～12	第11回模擬試験	藤本、谷岡、東、三崎
13～15	第12回模擬試験	藤本、谷岡、東、三崎
16～18	第13回模擬試験	藤本、谷岡、東、三崎
19～21	第14回模擬試験	藤本、谷岡、東、三崎
22～24	第15回模擬試験	藤本、谷岡、東、三崎
25～27	第1回総合学力試験	藤本、谷岡、東、三崎
28～30	第2回総合学力試験	藤本、谷岡、東、三崎

教科書・参考書	参考書：1，2年で使用した教科書、授業資料
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験・総合学力試験：70点、出席30点とする。59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨地前学内実習		担当教員	谷岡その・他
開講時期	☒ 前期	☐ 後期	学 年	3 学年
			単位数	1

【一般目標（GIO）】

学内実習で学んだ内容を復習し、臨地実習の現場に出る自覚を再認識する。臨地実習において、必要な技能・知識・態度を備えると同時に、身だしなみなど医療人としての心構えを再確認する。各実習を通して身につけた検査手技を客観的に評価する実技試験を実施する。臨地実習前技能習得到達度評価項目から必ず実施すべきA項目と微生物系の同定検査、病理系の標本作製、共通項目について習得度・到達度に応じた個別指導を実施する。

【到達目標（SBO）】

- ・生理系：標準12誘導心電図、スパイロメトリーの検査が行える。
- ・輸血系：ABO式血液型検査、RhD血液型検査が行える。
- ・微生物系：Gram染色、無菌操作・分離培養、同定検査が行える。
- ・一般系：尿定性試験紙法が行える。
- ・血液系：血球計数検査、血液塗抹標本作製と鏡検が行える。
- ・病理系：病理組織標本、細胞診標本作製の手技・染色方法を説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	血液系：血球計数検査、血液塗抹標本作製と鏡検 病理系：標本作製	谷岡、東、藤本、三崎
3・4・5	生理系：標準12誘導心電図、スパイロメトリー	谷岡、東、藤本、三崎
6・7	輸血系：ABO式血液型検査、RhD血液型検査 一般系：尿定性試験紙法	谷岡、東、藤本、三崎
8・9	微生物系：Gram染色、無菌操作・分離培養、同定検査	谷岡、東、藤本、三崎
10・11	生理系：標準12誘導心電図、スパイロメトリー	谷岡、東、藤本、三崎
12・13	練習：血液系、輸血系、一般系、微生物系	谷岡、東、藤本、三崎
14・15	練習：生理系	谷岡、東、藤本、三崎
16・17・18	試験：血液系、輸血系、一般系、微生物系、病理系 総括：検体検査	谷岡、東、藤本、三崎
19・20	実技練習：生理系 補講：血液系、輸血系、一般系、微生物系、病理系	谷岡、東、藤本、三崎
21・22・23	試験：生理系 標準12誘導心電図、スパイロメトリー	谷岡、東、藤本、三崎
24	総括：生理系 標準12誘導心電図、スパイロメトリー	谷岡、東、藤本、三崎
25	補講	谷岡、東、藤本、三崎
26	再試験	谷岡、東、藤本、三崎

教科書・参考書	教科書・参考書：1・2年生で使用した教科書
成績評価法	生理系20点、輸血系20点、微生物系20点、一般系10点、血液系20点、病理系10点とする。出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分		☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野			
授業科目名		臨地実習		担当教員		東 博美		授業形態		☐ 講義 ☒ 実習	
開講時期		☒ 前期 ☐ 後期		学 年		3 学年		単位数		11	

【一般目標（GIO）】

医療の現場において実際の体験を通して次のことを会得すること。

【到達目標（SBO）】

1. 将来、臨床検査技師として活躍するための良識を身につけるとともに、医療人としての倫理観を身につける。
2. 臨床検査の現場に身を置き、臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を修得する。
3. 臨床検査技師の意義、精度管理の必要性、そして検査研究の重要性を認識するために、疾患への興味を持ち、検査情報により病態解析へのアプローチを身につける。
4. 医学、医療の専門職そして医療チームの一員として積極的に取組むために医療のなかにおける臨床検査および臨床検査技師の役割と責任を知り、医療人としての自覚を持つ

（授業内容）

回	授 業 内 容	担当教員
1	<実習期間>	
2	5月1日～7月31日までの月曜日～金曜日の3か月間	
3	土曜日は学校へ登校	
4	<実習施設>	
5	東京都・千葉県・神奈川県に所在	
6	今年度は12 施設	
7	1 施設 1～2名で派遣	
8	<実習内容>	
9	臨地実習ガイドライン2021に則る	
10	<臨地実習終了後>	
11	各施設より学校宛に学生個人の成績表と実習修了証書が送付される	
12	<学習上の注意点>	
13	目的意識をしっかりと持ち、すでに学んだ基礎知識や技術を常に再点検	
14	しながら積極的に取組むこと	
15	実習のマナーを守り、他職種との協調性にも努めること	

教科書・参考書	学校の教科書と参考書、施設の配布物、臨地実習ノート
成績評価法	臨地実習全体を100点満点として採点する。 各施設の成績 70点 臨地実習ノート20点 出席点 10点から成績評価を行う。 なお出席日数が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	病理組織・細胞診検査学特論	担当教員	谷岡その	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期	学 年	3 学年	単位数 2

【一般目標（GIO）】

- ・国家試験出題基準に基づき、解剖学、組織学、病態学、病理検査学、細胞診検査学の復習を行う。
- ・国家試験過去問題5年間分をⅠ解剖学・組織学、Ⅱ病理学総論各論、Ⅲ病理組織標本作製、Ⅳ染色、Ⅴ細胞診、Ⅵ電子顕微鏡検査、Ⅶ免疫組織化学検査、Ⅷ病理解剖・その他に分類し、出題傾向を理解する。
- ・毎月実施する模擬試験問題から強みと弱点を明確にする。

【到達目標（SBO）】

- ・国家試験病理組織細胞学問題において60%以上の正解率を達成する。
- ・国家試験出題基準に基づいて総復習を行い出題率の高い分野を理解し暗記する。
- ・強みを伸ばし、弱点を克服して得点率を上げる。
- ・1月末に実施する総合学力試験の得点率が60%を目標とする。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	病理検査室において組織および細胞診標本の作製プロセスを再確認する。	谷岡
3・4	国家試験10年間の画像問題：出題変遷と効率的対策	谷岡
5・6	解剖学・組織学の過去問5年分：傾向と対策を徹底解説	谷岡
7・8	病理学総論・各論の過去問5年分：傾向と対策を徹底解説	谷岡
9・10	病理組織標本作製、染色の過去問5年分：傾向と対策を徹底解説	谷岡
11・12	細胞診、電子顕微鏡検査の過去問5年分：傾向と対策を徹底解説	谷岡
13・14	病理解剖、試薬などの過去問5年分：傾向と対策を徹底解説	谷岡
15・16・17	模擬試験問題の解説、演習問題	谷岡
18・19・20	模擬試験問題の解説、演習問題	谷岡
21・22・23	模擬試験問題の解説、演習問題	谷岡
24・25・26	模擬試験問題の解説、小テスト①50問	谷岡
27・28・29	模擬試験問題の解説、小テスト②50問	谷岡
30・31・32	国試直前対策：新カリキュラム国家試験問題を復習	谷岡

教科書・参考書	教科書：『最新 臨床検査学講座 病理学/病理検査学』（株）医歯薬出版
成績評価法	模擬試験（病理組織細胞学分野）50点、出席30点、小テスト20点、59点以下は不可とする。 出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院、医療機関での勤務

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	精度管理学		担当教員 荒木 秀夫	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期	☒ 後期	学 年 3 学年	単位数 1

【一般目標（GIO）】

検査結果の過誤は検査過程での異常のみならず、患者への説明不足や採血時間の遅れ、検体保存や処理方法の誤り、結果の表記ミスなど様々である。従って、臨床に報告した検査結果が正確であることを保証するためには、システムの管理を徹底し、グラフや統計といった手段を用いて結果の正しさを自己評価できるようにしておく必要がある。そして、臨床報告された検査結果が常に正確であることが保証されていなければならない（臨床検査全般の精度保証を確立するための知識を身につける）。

【到達目標（SBO）】

- 1) 臨床検査技師の役割と使命を理解し説明でき、診断方法の変遷を理解し、臨床検査の意義を説明できる。
- 2) 検査管理の定義、検査部門の役割、検査の倫理を理解し、検査管理の概念を説明できる。
- 3) 検査部門の組織と業務およびチーム医療の重要性を理解し、それらを説明できる。
- 4) 検査部門の管理と運営、特に医療安全、感染対策、安全衛生管理などについて理解し説明できる。
- 5) 検査受付、検体の前処理、検査結果の報告などの流れを理解し説明できる。
- 6) 検査の精度保証（精度管理）について理解し説明できる。
- 7) 臨床検査全体の総合的な精度保証について理解し説明できる。
- 8) 臨床検査技師国家試験「検査総合管理学」に合格すると同等の知識の獲得を到達目標とする。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	① 臨床検査技師の役割と使命、臨床検査の意義（診断法・目的・スクリーニング検査）	荒木
2	①演習問題（国家試験対策）	荒木
3	②臨床検査の概念、検査部門の組織と業務、検査体制、POCT、OTC、チーム医療	荒木
4	②演習問題（国家試験対策）	荒木
5	③検査部門の管理と運営（業務管理、検査機器管理）（物品管理、情報管理、財務管理）	荒木
6	③演習問題（国家試験対策）	荒木
7	④検査部門の診療報酬の仕組み、受付と前処理、報告・評価・精度保証・統計学	荒木
8	④演習問題（国家試験対策）	荒木
9	⑤検査法の信頼性評価、精密度と正確度、化学分析・酵素・SI単位、精度管理法の分類	荒木
10	⑤演習問題（国家試験対策）	荒木
11	⑥精度管理法概略、基準測定操作法、標準物質、測定結果評価、安全管理（事故、過誤）	荒木
12	⑥演習問題（国家試験対策）	荒木
13	⑦医療事故防止、感染対策、安全衛生（医療用ガス・毒物劇物・医療廃棄物）、労働衛生	荒木
14	⑦演習問題（国家試験対策）	荒木
15	まとめ、模擬試験	荒木

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「臨床検査総合管理学（第3版）」医歯薬出版
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験・総合学力試験（担当科目）70点、出席点30点（2点×出席数）で成績評価を行う。なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	移植免疫検査学特論	担当教員	藤本純光	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期	学 年	3 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

移植免疫学について講義や実習で習得した知識を用いて問題演習行い、演習と解説を通して理解を深めていく。

【 到達目標（S B O） 】

移植免疫学の各専門科目の演習問題に対して説明ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1, 2	移植免疫学 問題演習と解説	藤本
3	移植免疫学 問題演習と解説	藤本
4, 5	移植免疫学 問題演習と解説	藤本
6, 7	移植免疫学 問題演習と解説	藤本
8, 9	移植免疫学 問題演習と解説	藤本
10, 11	移植免疫学 問題演習と解説	藤本
12, 13	移植免疫学 問題演習と解説	藤本
14, 15	移植免疫学 問題演習と解説	藤本

教科書・参考書	教科書：臨床検査学講座 免疫検査学/輸血・移植検査学 第2版 （医歯薬出版）
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。模擬試験・総合学力試験（担当科目）70点、出席点30点で成績評価を行う。なお、出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	一般検査学特論			担当教員	藤本純光		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期		学 年	3 学年		単位数	1	

【 一般目標（G I O） 】

1年生時に学んだ一般検査の内容を基礎的な内容から国家試験問題対応できるように必要な内容について問題演習を通して学ぶ。
尿定性試験紙法や尿沈渣、そのほかの検査材料を用いた検査の原理や目的、臨床的意義について復習して理解を深めていく。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 尿定性試験紙法の原理・目的・臨床的意義を理解し、試験について説明できる。
- 2) 尿沈渣検査における細胞の形態的特徴を学び、各細胞の意義について説明できる。
- 3) 便検査の各検査の原理・目的・臨床的意義を理解し、試験について説明できる。
- 4) 脳脊髄液検査の細胞数算定・生化学的性状変化について説明ができる。
- 5) 各検体の取り扱いについて説明ができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	問題演習と解説	藤本純光
2	問題演習と解説	藤本純光
3	問題演習と解説	藤本純光
4	問題演習と解説	藤本純光
5	問題演習と解説	藤本純光
6	問題演習と解説	藤本純光
7	問題演習と解説	藤本純光
8	問題演習と解説	藤本純光
9	問題演習と解説	藤本純光
10	問題演習と解説	藤本純光
11	問題演習と解説	藤本純光
12	問題演習と解説	藤本純光
13	問題演習と解説	藤本純光
14	問題演習と解説	藤本純光
15	問題演習と解説	藤本純光

教科書・参考書	教科書： 臨床検査学講座 一般検査学（医歯薬出版）
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験・総合学力試験（担当科目）70点、出席点30点（2点×出席数）で成績評価を行う。 なお、出席が2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：臨床検査技師として病院勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	病態学演習	担当教員	東博美 三崎千恵美	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期	学 年	3 学年	単位数 2

【 一般目標（G I O） 】

国家試験合格を目指して、本科目は複数教員による分担授業として実施する。基礎的な内容から画像を読み取れるように超音波の特徴を習得するとともに、生理機能検査および微生物検査に関する基礎的事項について、過去問題や模擬試験の解説を通して理解を深める。

【 到達目標（S B O） 】

1. 超音波の原理を習得する。
2. 心臓超音波検査、腹部超音波検査の基礎、特徴を習得する。
3. 生理機能検査および微生物検査に関する基礎的事項を理解する。
4. 総合学力試験・国家試験に合格できる知識を習得する。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	演習と講義・解説	東・三崎
2	演習と講義・解説	東・三崎
3	演習と講義・解説	東・三崎
4	演習と講義・解説	東・三崎
5	演習と講義・解説	東・三崎
6	演習と講義・解説	東・三崎
7	演習と講義・解説	東・三崎
8	演習と講義・解説	東・三崎
9	演習と講義・解説	東・三崎
10	演習と講義・解説	東・三崎
11	演習と講義・解説	東・三崎
12	演習と講義・解説	東・三崎
13	演習と講義・解説	東・三崎
14	演習と講義・解説	東・三崎
15	演習と講義・解説	東・三崎

教科書・参考書	教科書：生理機能検査学 配布資料
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験・総合学力試験（担当科目）70点、出席点30点（2点×出席数）で成績評価を行う。なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	病院勤務勤務経験があり。実務経験に基づいて授業を行う。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☒ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野				
授業科目名	公衆衛生学特論		担当教員	宮嶋 由佳	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期		学 年	3 学年	単位数 2

【一般目標（GIO）】

公衆衛生学・予防医学の概念と方法を理解し、また現状の問題点を把握する。
さらに将来医療従事者として公衆衛生の向上、予防医学活動を実践するために必要な知識と国家試験に対応するための十分な知識を身に付ける。

【到達目標（SBO）】

- 1) 用語の定義を正確に述べることができる。
- 2) 公衆衛生上の問題について原因を列挙し、対策について説明できる。
- 3) 公衆衛生活動における管理の実際や予防法について具体的に説明できる。
- 4) 関連する法規を列挙し、内容を説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1	公衆衛生の意義・定義、予防医学	宮嶋
2	社会保障制度、国民医療費	宮嶋
3	地域保健、国際保健	宮嶋
4	統計（１）：人口静態統計	宮嶋
5	統計（２）：人口動態統計	宮嶋
6	統計（３）：その他統計	宮嶋
7	食品保健、食中毒	宮嶋
8	感染症対策	宮嶋
9	環境保健（生活環境、地球環境問題、公害など）	宮嶋
10	母子保健	宮嶋
11	学校保健	宮嶋
12	精神保健	宮嶋
13	高齢者保健	宮嶋
14	健康増進対策	宮嶋
15	医療法	宮嶋

教科書・参考書	公衆衛生学がみえる メディックメディア
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。模擬試験・総合学力試験（担当科目）70点、出席点30点（2点×出席数）で成績評価を行う。なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科 I 部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	臨床免疫学特論		担当教員 黒田 雅顕	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期	☒ 後期	学 年 3 学年	単位数 2

【一般目標（GIO）】

国家試験受験に向けて、臨床検査技師国家試験出題基準、臨床免疫学「免疫検査学」・「輸血・移植検査」の以下の各項目の国家試験過去問題の解答と解説を行い、各項目の重要事項ポイントを把握して理解を深める。

【国家試験出題基準】〈免疫検査学〉①免疫システムの成り立ち、②外来抗原に対する反応、③免疫学的検査の基礎知識と技術、④抗原抗体反応による分析法、⑤免疫機能検査、⑥免疫と疾患の関わり〈輸血・移植検査〉①輸血療法の基礎、②輸血の基礎知識、③輸血前検査、④輸血副反応、⑤自己血輸血、⑥輸血管理、⑦移植免疫と検査、⑧母児間血液型不適合妊娠

【到達目標（SBO）】

- ①免疫系の構成要素、自然免疫と獲得免疫、能動免疫と受動免疫、自己寛容について説明できる。
- ②免疫グロブリンの種類と機能、補体活性化経路のしくみを理解して生体防御における役割を説明できる。
- ③感染症検査、アレルギー検査、自己免疫関連検査、血清蛋白異常症関連検査、細胞性免疫検査を説明できる。
- ④血液製剤の種類と適応、血液型の種類と特徴、輸血前検査について説明できる。
- ⑤輸血副反応の種類と検査、自己血輸血の種類と適応、緊急輸血時の考え方について説明できる。
- ⑥移植免疫と移植前検査、母児間血液型不適合妊娠の検査と対応について説明できる。

【授業内容】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	国家試験対策：自然免疫と獲得免疫、免疫担当器官・組織・細胞	黒田雅顕
3・4	国家試験対策：免疫グロブリンの構造と機能	黒田雅顕
5・6	国家試験対策：補体活性経路と補体測定 of 臨床的意義	黒田雅顕
7・8	国家試験対策：免疫学的測定法の原理Ⅰ（沈降・凝集・溶解・中和反応）	黒田雅顕
9・10	国家試験対策：免疫学的測定法の原理Ⅱ（標識免疫測定法・電気泳動法）	黒田雅顕
11・12	国家試験対策：感染症の免疫学的検査Ⅰ（溶血性連鎖球菌・梅毒感染症）	黒田雅顕
13・14	国家試験対策：感染症の免疫学的検査Ⅱ（肝炎・レトロウイルス感染症）	黒田雅顕
15・16	国家試験対策：免疫不全症と免疫不全症関連検査	黒田雅顕
17・18	国家試験対策：アレルギー・腫瘍マーカーの分類と臨床的意義	黒田雅顕
19・20	国家試験対策：自己免疫疾患関連検査と抗核抗体	黒田雅顕
21・22	国家試験対策：血清蛋白異常症関連検査、急性期蛋白質	黒田雅顕
23・24	国家試験対策：血液製剤、検査法全般	黒田雅顕
25・26	国家試験対策：ABO血液型、Rh血液型と検査法	黒田雅顕
27・28	国家試験対策：交差適合試験、不規則抗体検査	黒田雅顕
29・30	国家試験対策：母児間血液型不適合、輸血副反応、自己血輸血、移植	黒田雅顕

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「免疫検査学/輸血・移植検査学」第2版 医歯薬出版 参考書：輸血・移植検査技術教本 第2版 丸善出版
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験・総合学力試験（担当科目）70点、出席点30点（1点×出席数）で成績評価を行う。なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野	
授業科目名	臨床化学特論			担当教員	伊藤 昭三		授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期		学 年	3 学年		単位数	2	

【 一般目標（G I O） 】

生化学を基礎にして臨床化学の分析方法、背景、結果の意味を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

- 1) 人体の成分を生化学的に説明できる。
- 2) 人体の代謝について生化学的に説明できる。
- 3) 臨床化学検査の分析法について説明できる。
- 4) 臨床化学検査の測定物質について測定意義、測定における注意事項、疾患との関係を説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	基礎編：臨床化学総論Ⅲ（酵素活性測定・酵素法） 1	伊藤
3・4	基礎編：臨床化学総論Ⅲ（酵素活性測定・酵素法） 2	伊藤
5・6	基礎編：臨床化学総論Ⅳ（分析法）、精度管理	伊藤
7・8	基礎編：ビタミン・ホルモン	伊藤
9・10	基礎編：細胞・代謝、無機	伊藤
11・12	基礎編：臓器、機能	伊藤
13・14	基礎編：臨床検査医学、R I	伊藤
15・16	基礎編：計算	伊藤
17・18	応用編：生化学総論・臨床化学総論 1、臨床化学総論 2	伊藤
19・20	応用編：臨床化学総論 3、臨床化学総論 4、精度管理	伊藤
21・22	応用編：糖質、アミノ酸・ペプチド・タンパク質、リポタンパク質、脂質	伊藤
23・24	応用編：核酸、臨床酵素、ビタミン、ホルモン	伊藤
25・26	応用編：細胞、代謝、無機	伊藤
27・28	応用編：臓器、機能	伊藤
29・30	応用編：臨床検査医学、R I	伊藤
31・32	応用編：計算	伊藤

教科書・参考書	Complete+MT2023/24 別巻 DOCTRINA臨床化学検査学 編著伊藤
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験・総合学力試験（担当科目）62点、出席点38点（1点×出席数）で成績評価を行う。 なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：東京医科大学病院にて生化学的検査の分析を行った。株式会社SRLにて放射性同位元素技術による成分の分析を行った。

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野		☒ 専門分野		☐ 選択必修分野		
授業科目名	臨床生理学特論		担当教員	河西 美代子		授業形態	☒ 講義	☐ 実習	
開講時期	☒ 前期		☒ 後期		学 年	3 学年		単位数	2

【 一般目標（G I O） 】
生理学、生理機能検査学の講義や実習で修得した知識を基に、検査結果と病態・疾患との関連を理解し説明ができる。
【 到達目標（S B O） 】
循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、画像検査、感覚機能検査に関連する臨床検査技師国家試験の過去問題を解説できる。
【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1 ・ 2	生理機能検査学 演習と解説	河西
3 ・ 4	生理機能検査学 演習と解説	河西
5 ・ 6	生理機能検査学 演習と解説	河西
7 ・ 8	生理機能検査学 演習と解説	河西
9 ・ 10	生理機能検査学 演習と解説	河西
11 ・ 12	生理機能検査学 演習と解説	河西
13 ・ 14	生理機能検査学 演習と解説	河西
15 ・ 16	生理機能検査学 演習と解説	河西
17 ・ 18	生理機能検査学 演習と解説	河西
19 ・ 20	生理機能検査学 演習と解説	河西
21 ・ 22	生理機能検査学 演習と解説	河西
23 ・ 24	生理機能検査学 演習と解説	河西
25 ・ 26	生理機能検査学 演習と解説	河西
27 ・ 28	生理機能検査学 演習と解説	河西
29 ・ 30	生理機能検査学 演習と解説	河西
31 ・ 32	生理機能検査学 演習と解説	河西
33 ・ 34	生理機能検査学 演習と解説	河西
35 ・ 36	生理機能検査学 演習と解説	河西

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座「生理機能検査学 第2版」医歯薬出版、適宜プリント配布
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験・総合学力試験（担当科目）64点、出席点36点（1点×出席数）で成績評価を行う。なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：なし

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野		☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野	
授業科目名	臨床微生物学特論		担当教員	米谷正太	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期	☒ 後期	学 年	3 学年	単位数	2

【 一般目標（G I O） 】 微生物学および臨床微生物検査に関する基礎知識を統合的に理解し、感染症の理解と診断に必要な考え方を身につけ、臨床検査技師国家試験に対応できる能力を養う。		
【 到達目標（S B O） 】 主要な病原微生物の構造、分類および特徴を説明できるとともに、代表的な感染症との関連を整理できる。さらに、滅菌・消毒および感染対策の基本原理を説明できる。 また、臨床微生物検査における検体の取り扱い、培養、同定、薬剤感受性試験の流れと各手法の特徴を説明でき、代表的な耐性菌の種類とその意義を理解している。		
【 授業内容 】		

回	授 業 内 容	担当教員
1 ・ 2	演習と講義・解説 総論①	米谷
3 ・ 4	演習と講義・解説 総論②	米谷
5 ・ 6	演習と講義・解説 総論③	米谷
7 ・ 8	演習と講義・解説 総論④	米谷
9 ・ 10	演習と講義・解説 細菌各論①	米谷
11 ・ 12	演習と講義・解説 細菌各論②	米谷
13 ・ 14	演習と講義・解説 細菌各論③	米谷
15 ・ 16	演習と講義・解説 細菌各論④	米谷
17 ・ 18	演習と講義・解説 細菌各論⑤	米谷
19 ・ 20	演習と講義・解説 細菌各論⑥	米谷
21 ・ 22	演習と講義・解説 細菌各論⑦	米谷
23 ・ 24	演習と講義・解説 細菌各論⑧	米谷
25 ・ 26	演習と講義・解説 真菌	米谷
27 ・ 28	演習と講義・解説 ウイルス	米谷
29 ・ 30	演習と講義・解説 総復習	米谷

教科書・参考書	教科書：臨床微生物学 最新臨床検査学講座 医歯薬出版
成績評価法	模擬試験・総合学力試験（担当科目）70点、出席点30点（1点×出席数）で成績評価を行う。 なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験： 大学病院で臨床検査技師として勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☐ 専門基礎分野 ☒ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	臨床血液学特論		担当教員	東 克巳	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期	学 年	3 学年	単位数	2	

【 一般目標（G I O） 】

本科目では国家試験問題に対応できるよう2年生までに学習した血液形態学および凝固学の復習を中心に講義を進める。

具体的には血液を構成する形態成分である赤血球、白血球、血小板の役割を理解し、その数の増減と形態異常から血液疾患の病態と検査所見の解析から診断に結び付けられるように講義する。また、液体成分である血液凝固、線溶について血小板も含め止血機構およびその異常を理解し、凝固系疾患の病態と検査所見の解析から診断に結び付けられるように講義する。

【 到達目標（S B O） 】

1. 疾病により血液細胞が受ける変化および血液凝固・線溶のカスケードを列挙し説明できる。
2. 疾病時の血液細胞の形態的異常を表現・列挙でき、また、凝固・線溶の検査結果を列挙し説明できる。
3. 血液学的検査結果と疾病との関係について説明できる。
4. 講義終了後は当日の講義内容を他の人に自分の言葉で説明できる。
5. 臨床血液学に関する国家試験問題の正答率が最低80%正解できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1・2	血液の基礎講義と演習および問題解説	東 克巳
3・4	赤血球の産生と崩壊、赤血球の形態講義と機能と演習及び問題解説	東 克巳
5・6	赤血球の生化学（ヘモグロビン合成と分解）講義と演習及び問題解説	東 克巳
7・8	赤血球の生化学（鉄代謝とビタミン代謝）講義と演習及び問題解説	東 克巳
9・10	疾患と病態【赤血球系疾患、貧血の成因】講義と演習及び問題解説	東 克巳
11・12	疾患の病態及び検査結果解釈【各種貧血①】講義と演習及び問題解説	東 克巳
13・14	疾患の病態及び検査結果解釈【各種貧血②】講義と演習及び問題解説	東 克巳
15・16	白血球、血小板の産生と崩壊講義と演習及び問題解説	東 克巳
17・18	疾患の病態及び検査結果解釈【白血球機能異常】講義と演習及び問題解説	東 克巳
19・20	疾患の病態及び検査結果解釈【造血器腫瘍】講義と演習及び問題解説	東 克巳
21・22	疾患の病態及び検査結果解釈【急性白血病・MDS】講義と演習及び問題解説	東 克巳
23・24	疾患の病態及び検査結果解釈【骨髄増殖性腫瘍】講義と演習及び問題解説	東 克巳
25・26	疾患の病態及び検査結果の解釈【M蛋白血症】講義と演習及び問題解説	東 克巳
27・28	血小板機能と止血機構	東 克巳
29・30	凝固・線溶系とその機能	東 克巳
31・32	疾患の病態及び検査結果の解釈【一次止血異常、血小板の異常】	東 克巳
33・34	疾患の病態及び検査結果の解釈【二次止血異常、凝固因子異常】	東 克巳
35・36	疾患の病態及び検査結果の解釈【凝固・線溶系制御機構異常】	東 克巳
37・38	直前総合演習①	東 克巳
39・40	直前総合演習②	東 克巳

教科書・参考書	教科書：最新臨床検査学講座 血液検査学（第3版） 奈良 信雄他著（医歯薬出版） 資 料：講義用資料、課題
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験・総合学力試験（担当科目）60点、出席点40点（1コマ×出席数）で成績評価を行う。 なお、出席が全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野	☐ 専門基礎分野	☒ 専門分野	☐ 選択必修分野
授業科目名	検査管理学総論	担当教員	藤本 純光 他	授業形態 ☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☒ 前期 ☒ 後期	学 年	3 学年	単位数 1

【 一般目標（G I O） 】

模擬試験を通して国家試験範囲の教科全般的を学習する。問題演習を行、1、2年生で学習したことを復習し、各分野に対する理解を深め、今後に必要な知識を身に付けていく。

近年、タスクシフトにより増えた静脈路確保、喀痰の吸引採取、消化管内視鏡検査、消化管内視鏡検査等について必要な知識と業務を学習する。

遺伝子染色体検査学について問題演習を通して重点的に学習をしていき、理解を深めていく。

【 到達目標（S B O） 】

各科目において基礎となる内容について説明できる。

模擬試験の各科目において60点以上の点数を取る。

タスクシフトにより増えた業務について説明ができる。

遺伝子染色体検査の出題された問題について正答が説明できる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1、2、3	第1回模擬試験	藤本 純光
4、5、6	第2回模擬試験	藤本 純光
7、8	第3回模擬試験	藤本 純光
9、10	第4回模擬試験	藤本 純光
11、12	第5回模擬試験	藤本 純光
13、14	第6回模擬試験	藤本 純光
15、16	第7回模擬試験	藤本 純光
17、18	タスクシフト（静脈路確保・喀痰の吸引採取）	藤本 純光
19、20	タスクシフト（直腸肛門機能検査・消化管内視鏡検査の補助業務）	藤本 純光
21、22	遺伝子染色体検査学 問題演習と解説	藤本 純光
23、24	遺伝子染色体検査学 問題演習と解説	藤本 純光
25、26	遺伝子染色体検査学 問題演習と解説	藤本 純光

教科書・参考書	参考書：1、2年で使用した教科書、配布資料
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験（担当科目）48点、出席点52点（2点×出席数）で成績評価を行う。なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：病院・医療機関での勤務経験

臨床検査技師科Ⅰ部

※科目区分・授業形態・開講時期はチェックをして下さい

科目区分	☐ 基礎分野 ☒ 専門基礎分野 ☐ 専門分野 ☐ 選択必修分野					
授業科目名	医用工学特論		担当教員	須貝遥揮	授業形態	☒ 講義 ☐ 実習
開講時期	☐ 前期 ☒ 後期		学 年	3 学年	単位数	2

【 一般目標（G I O） 】

医療検査機器にも用いられる工学の基礎知識を習得する。
臨床検査に必要な検査機器に関する原理・構造を十分理解する。
医療機器に用いられる情報技術についての基礎知識を理解する。

【 到達目標（S B O） 】

簡易な電気回路の読み解き、抵抗の計算ができる。
検査機器等より生じる電気による人体の影響を理解し、機器や設備の安全基準を説明できる。
基礎的な情報処理において計算ができ、アルゴリズムを読み解くことができる。

【 授業内容 】

回	授 業 内 容	担当教員
1	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
2	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
3	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
4	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
5	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
6	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
7	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
8	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
9	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
10	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
11	模擬試験の解説、類題の確認	須貝
12	模擬試験の解説、模試及び国試の頻出範囲の再確認	須貝
13	模擬試験の解説、模試及び国試の頻出範囲の再確認	須貝
14	模擬試験の解説、模試及び国試の頻出範囲の再確認	須貝
15	模擬試験の解説、模試及び国試の頻出範囲の再確認	須貝

教科書・参考書	参考書『最新 臨床検査学講座 医用工学概論』（株）医歯薬出版、『最新 臨床検査学講座 検査機器総論』（株）医歯薬出版、『最新 臨床検査学講座 情報科学』（株）医歯薬出版、模擬試験問題
成績評価法	講義全体を100点満点として採点する。 模擬試験・総合学力試験（担当科目）70点、出席点30点（2点×出席数）で成績評価を行う。なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となるので注意すること。
備考・実務経験等	実務経験：なし